



TITLE:

<3>地域連携 : 関西地区FD連絡協議会 -7年目の活動成果-

AUTHOR(S):

CITATION:

<3>地域連携 : 関西地区FD連絡協議会 -7年目の活動成果-. 京都大学高等教育叢書 2015, 34: 113-183

ISSUE DATE:

2015-03-17

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/197300>

RIGHT:

III. 地域連携

III-1. 活動成果の概要

1. 関西地区 FD 連絡協議会 第 7 回総会

本協議会の第 7 回総会が、2014 年 5 月 17 日に京都大学百周年時計台記念館において開催された。本総会では議事に先立ち、文部科学省高等教育局大学振興課長の里見朋香氏より「FD の現状と課題について」という題目で高等教育における FD（ファカルティデベロップメント）の現状と今後求められる取り組みや課題について政策立案の立場から講演があった。議事においては、各ワーキング・グループから 2013 年度の活動報告および 2014 年度の活動方針、ならびに決算・予算計画について報告があり、承認が得られた。また、今年度より、FD に関する個別テーマの分科会が講演・ワークショップ形式で開催された。その後、会員校の組織的 FD の取り組みに関するポスターセッション「FD 活動報告会」が実施された。本協議会設立 7 年目を迎えた今回の総会では、これまで整えてきた体制を基盤として、今後さらに大学間の連携を深めていくことが確認された。

第7回総会プログラム

総 会【京都大学 百周年時計台記念館】13：00～

進 行：長谷川 岳史（龍谷大学）

開会挨拶：沖 裕貴（立命館大学）

基調講演「FDの現状と課題について」13：10～

里見 朋香（文部科学省高等教育局大学振興課長）

議 事 14:00～

議 長：飯吉 透（京都大学・代表幹事校代表）

- (1) 平成25年度活動報告について
- (2) 平成26年度活動方針について
- (3) 平成25年度決算について
- (4) 平成26年度予算について
- (5) 次期幹事校、監査校の選出について
- (6) その他

FD分科会 15:10～

分科会1：FD担当者のためのQ and A セミナー

ー今さら聞けないFDの基礎基本ー

講師：佐藤 浩章（大阪大学）

分科会2：学びの意欲が持てない現代大学生の自己像とは？

ー彼らをどう理解し支援するのかー

講師：谷 美奈（帝塚山大学）・松下 佳代（京都大学）

分科会3：アクティブラーニングの新しい展開・反転授業

講師：森 朋子（関西大学）・溝上 慎一（京都大学）

ポスターセッション「FD活動報告会2014」【国際交流ホール】16：40～

閉会挨拶：飯吉 透（京都大学）

第7回総会の議事録を以下に記す。

【総会】

1. 開会

- ・開会に先立ち、長谷川岳史教授（龍谷大学）が会の進行役を務めることが確認された。

2. 開会の辞

- ・沖裕貴教授（立命館大学）より、開会のあいさつがあった。

3. 講演会

- ・里見 朋香氏（文部科学省高等教育局大学振興課長）より「FDの現状と課題について」の題目で講演があった。
- ・講演後質疑応答がおこなわれた。

4. 議事

- ・議事に先立ち、進行役の長谷川教授より、本協議会規約第6条第6項による出席会員校数の要件を充たしており、本総会は規約上成立することが確認された。
- ・長谷川教授より本協議会規約第7条第3項に基づき、代表幹事校代表の飯吉透教授（京都大学）が本日の総会の議長となることについて説明があった。
- ・飯吉議長より、あいさつがあった。

(1) 平成 25 年度活動報告および平成 26 年度活動方針案について

各ワーキンググループ（WG）の責任校より以下のとおり報告があった。

① FD 共同実施 WG（報告者：大阪大学 竹村治雄教授）

- ・竹村教授より、平成25年度の活動及び平成26年度活動方針案について報告があった。

② FD 連携企画 WG（報告者：立命館大学 安岡高志教授）

- ・安岡教授より、平成25年度の活動及び平成26年度活動方針案について報告があった。

③ 広報 WG（報告者：大阪市立大学 大久保敦教授）

- ・大久保教授より、平成25年度の活動及び平成26年度活動方針案について報告があった。

④ 研究 WG（報告者：神戸大学 山内乾史教授）

- ・山内教授より、平成25年度の活動及び平成26年度活動方針案について報告があった。

以上、各 WG の活動報告および活動方針案について、会場において了承された。

(2) 平成 25 年度決算案および平成 26 年度予算案について（報告者：京都大学）

- ・事務局（京都大学）より、平成25年度決算案について説明があった。
- ・監査役より、平成25年度決算に関して近畿大学・大阪工業大学によって監査をおこなった結果、すべて適正であった旨報告があった。平成25年度決算について、会場において了承された。
- ・事務局より、平成26年度予算案について説明があり、会場において了承された。

(3) 次期幹事校の選出について

－大阪府立大学、関西学院大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部（26.4.26～28.4.25）

- ・議長より、幹事校の任期満了による交代について説明があり、次期幹事校について、立候補を募った。
- ・立候補がなかったため、議長より次期任期（本総会承認後～第9回総会まで）についても現行の体制で継続したい旨提案し、会場の了承を得た。

(4) 次期監査校の選出について

－近畿大学、大阪工業大学（26.4.26～28.4.25）

- ・議長より、監査校の任期満了による交代について説明があり、次期監査校について、立候補を募った。
- ・立候補がなかったため、議長より次期任期（本総会承認後～第9回総会まで）についても現行の体制で継続したい旨提案し、会場の了承を得た。

5. FD 分科会

FD に関するテーマで「分科会 1」「分科会 2」「分科会 3」がおこなわれた。

6. ポスターセッション

場所を国際交流ホールに移し、ポスターセッション「FD 活動報告会 2014」がおこなわれた（その詳細については、次項 III-2 を参照されたい）。

7. 閉会の辞

- ・議長より閉会の挨拶があった。

2. 組織と実施体制

本協議会の会員校数は、2014 年 12 月 25 日現在で 147 校（121 法人）である。括弧内の「法人」の表記については、同一法人組織である大学と短期大学（部）が単一の機関として入会していることを示す。昨年 2013 年 12 月 25 日時点では、149 校（123 法人）であり、会員校数は 1 年間で 2 校（2 法人）の減少となる。会員校リストを表 1 に示す。

本協議会の組織図を図 1 に示す。本協議会の組織体制は、代表幹事校 1 校、常任幹事校 5 校、幹事校 8 校、監査役 2 校で構成されている（表 2）。

本協議会の活動を推進するため、4 つの WG として「FD 共同実施 WG」「FD 連携企画 WG」「広報 WG」「研究 WG」が設置されている。これら WG の活動については、本書 III-3 以降で詳述されているのでそちらを参照いただきたい。なお、各 WG には、円滑な運営のために、数校の幹事校によって構成される「部」が設置されている（表 3）。

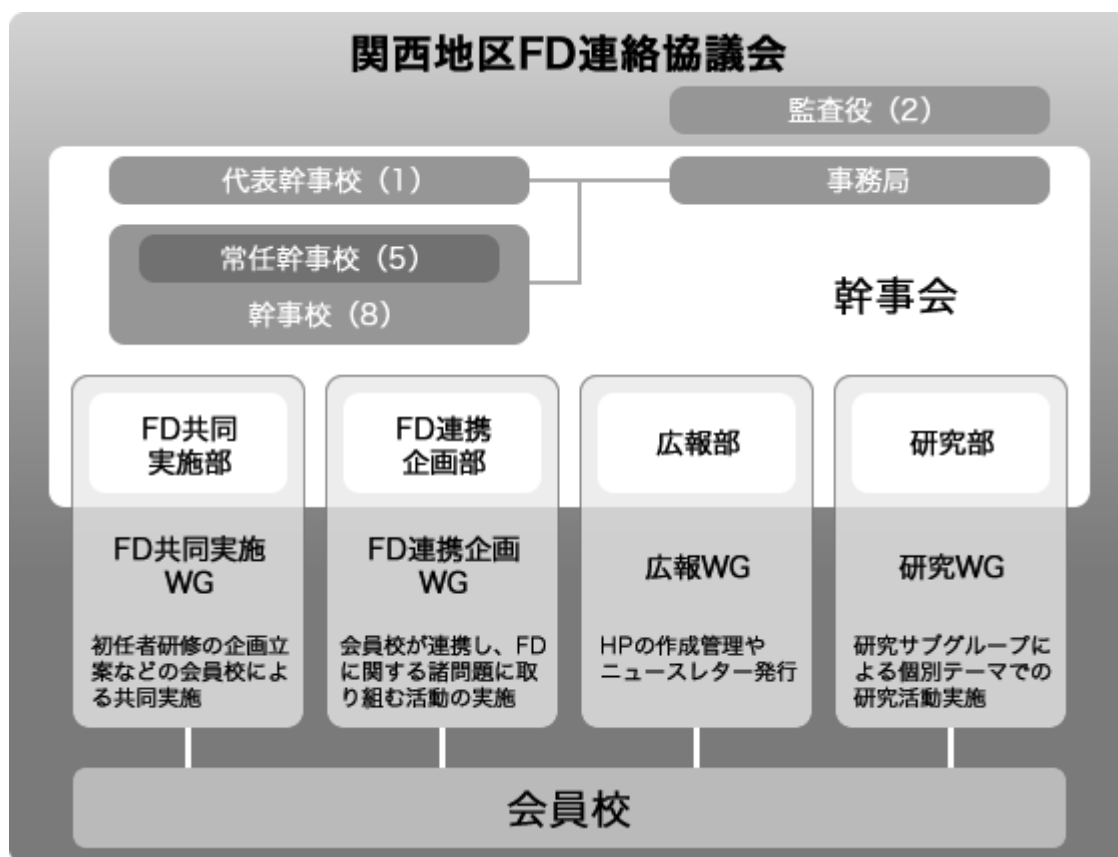


図1 関西地区FD連絡協議会の組織図

表1 会員校名リスト 2014年12月25日現在、147校(121法人)

| |
|---|
| <p>藍野大学・藍野大学短期大学部*、芦屋学園短期大学、池坊短期大学、追手門学院大学、大阪大学、大阪青山大学、大阪医科大学、大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部*、大阪河崎リハビリテーション大学、大阪観光大学、大阪教育大学、大阪キリスト教短期大学、大阪経済大学、大阪経済法科大学、大阪工業大学、大阪産業大学、大阪歯科大学、大阪樟蔭女子大学・大阪樟蔭女子大学短期大学部*、大阪商業大学、大阪女学院大学、大阪市立大学、大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学、大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学*、大阪体育大学、大阪電気通信大学、大阪人間科学大学・大阪薫英女子短期大学*、大阪府立大学、大阪保健医療大学、大阪薬科大学、大谷大学・大谷大学短期大学部*、関西大学、関西医科大学、関西医療大学、関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部*、関西看護医療大学、関西福祉科学大学・関西女子短期大学*、関西学院大学、畿央大学、京都大学、京都医療科学大学、京都外国語大学・京都外国語短期大学*、京都学園大学、京都華頂大学・華頂短期大学*、京都教育大学、京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部*、京都産業大学、京都女子大学・京都女子大学短期大学部*、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都聖母女学院短期大学、京都造形芸術大学、京都橘大学、京都ノートルダム女子大学、京都府立大学、京都文教大学・京都文教短期大学*、京都薬科大学、近畿大学、甲子園大学・甲子園短期大学*、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸市外国語大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学・神戸女子短期大学*、神戸親和女子大学、神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部*、神戸薬科大学、神戸山手大学・神戸山手短期大学*、堺女子短期大学、滋賀大学、滋賀医科大学、滋賀県立大学、滋賀短期大学、四條畷学園大学・四條畷学園短期大学部*、四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部*、神戸夙川学院大学・夙川学院短期大学*、聖泉大学、聖和短期大学、摂南大学、千里金蘭大学、相愛大学、園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部*、宝塚大学、帝塚山大学、天理大学、同志社大学、同志社女子大学、東洋食品工業短期大学、常磐会学園大学、長浜バイオ大学、奈良大学、奈良学園大学、奈良教育大学、奈良女子大学、奈良文化女子短期大学、梅花女子大学・梅花女子大学短期大学部*、羽衣国際大学、花園大学、阪南大学、東大阪大学・東大阪大学短期大学部*、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部*、びわこ成蹊スポーツ大学、○佛教大学、平安女学院大学、湊川短期大学、武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部*、桃山学院大学、森ノ宮医療大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部*、流通科学大学、和歌山大学、和歌山県立医科大学、和歌山信愛女子短期大学</p> |
|---|

*同一法人組織である大学と短期大学(部)が、単一の機関として入会

表2 関西地区FD連絡協議会の組織体制

| | |
|-------------|---|
| 代表幹事校(任期4年) | 京都大学 |
| 事務局 | 京都大学 |
| 常任幹事校(任期4年) | 大阪大学 大阪市立大学 神戸大学 同志社大学 立命館大学 |
| 幹事校(任期2年) | 大阪府立大学 関西大学* 関西学院大学 神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部* 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 和歌山大学* |
| 監査役(任期2年) | 大阪工業大学 近畿大学 |

* は規約施行の最初の特例措置として、3年任期の幹事校。

表3 関西地区FD連絡協議会の4つの部

| | |
|----------|--|
| FD 共同実施部 | 大阪大学* 関西学院大学 京都大学 |
| FD 連携企画部 | 立命館大学* 関西大学 神戸常盤大学・神戸常磐大学短期大学部 大阪府立大学 京都大学 |
| 広報部 | 大阪市立大学* 和歌山大学 京都大学 |
| 研究部 | 神戸大学* 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 同志社大学 京都大学 |

*はWGの責任校。各部に、代表幹事校（京都大学）が連絡担当として加わる

3. 幹事校会議

2014年度におこなわれた幹事校会議の議事および資料について以下に挙げる。議事次第および○印を付した資料は、本節資料として示す。幹事校メーリングリストを利用した回議については省略する。

3-1. 第9回幹事校会議（2014年度第1回）

日時：平成26年4月14日（月）15：00～

場所：京都大学吉田南1号館106会議室

議題

1. 平成25年度活動報告案について
2. 平成26年度活動方針案について
3. 平成25年度決算案について
4. 平成26年度予算案について
5. 次期幹事校の選出について【任期満了による交替】
6. その他

（配付資料）

- 資料—1 関西地区FD連絡協議会幹事会（第9回）出席者名簿（本節資料1）
- 資料—2 平成25年度関西地区FD連絡協議会事業報告〔事務局関連〕（本節資料2）
- 資料—3 関西地区FD連絡協議会会員校一覧（平成26年4月14日現在）
- 資料—4 関西地区FD連絡協議会幹事会（第8回）議事録（案）（平成25年4月15日開催）
- 資料—5 FD共同実施WG活動報告・活動方針案（本節資料3）
- 資料—6 FD連携企画WG活動報告・活動方針案（本節資料4）
- 資料—7 広報WG活動報告・活動方針案（本節資料5）
- 資料—8 研究WG活動報告・活動方針案（本節資料6）
- 資料—9 平成25年度関西地区FD連絡協議会決算書（案）
- 資料—10 平成26年度関西地区FD連絡協議会予算書（案）
- 資料—11 平成27年度、平成28年度予算素案
- 資料—12 FD活動報告会ポスター発表校一覧
- 資料—13 関西地区FD連絡協議会第7回総会プログラム（案）

資料―14 関西地区 FD 連絡協議会第 7 回総会『当日の手順』(案)

参考資料―1 「関西地区 FD 連絡協議会」規約

参考資料―2 関西地区 FD 連絡協議会会費取扱要領

3-2. 第 10 回幹事校会議 (2014 年度第 2 回)

日 時：平成 26 年 12 月 1 日 (月) 15:00 ～

場 所：京都大学吉田南 1 号館 106 会議室

議 題

1. 関西地区 FD 連絡協議会の今後について
2. その他

(配付資料)

- 資料―1 関西地区 FD 連絡協議会幹事会 (第 10 回) 出席者名簿 (本節資料 7)
- 資料―2 関西地区 FD 連絡協議会幹事会 会員校一覧 (平成 26 年 12 月 1 日現在)
- 資料―3 関西地区 FD 連絡協議会幹事会 幹事校一覧 (平成 26 年 12 月 1 日現在)
- 資料―4 平成 26 年度関西地区 FD 連絡協議会予算書
- 資料―5-1 平成 27 年度関西地区 FD 連絡協議会予算素案― 1
- 資料―5-2 平成 27 年度関西地区 FD 連絡協議会予算素案― 2
- 資料―5-3 平成 27 年度関西地区 FD 連絡協議会予算素案― 3

参考資料―1 「関西地区 FD 連絡協議会」規約

参考資料―2 関西地区 FD 連絡協議会会費取扱要領

参考資料―3 会費値上げアンケート結果資料

参考資料―4 第 7 回総会プログラム

参考資料―5 第 7 回総会経費

参考資料―6 関西地区 FD 連絡協議会幹事会 (第 9 回) 議事録 (案)

(平成 26 年 4 月 14 日開催)

3-3. 第 11 回幹事校会議 (2014 年度第 3 回)

日 時：平成 27 年 1 月 26 日 (月) 15:00 ～

場 所：京都大学百周年時計台記念館会議室Ⅲ

議 題

1. 関西地区 FD 連絡協議会の今後について
2. その他

(配付資料)

- 資料―1 関西地区 FD 連絡協議会幹事会 (第 11 回) 出席者名簿 (本節資料 8)
- 資料―2 関西地区 FD 連絡協議会幹事会 会員校一覧 (平成 27 年 1 月 26 日現在)
- 資料―3 関西地区 FD 連絡協議会幹事会 幹事校一覧 (平成 27 年 1 月 26 日現在)
- 資料―4 関西地区 FD 連絡協議会幹事会 (第 10 回) 議事録 (案)

(平成 26 年 12 月 1 日開催)

- 資料―5 関西地区 FD 連絡協議会幹事会 FD 共同実施ワーキンググループ ワークロード
- 資料―6 関西地区 FD 連絡協議会幹事会 FD 連携企画ワーキンググループ ワークロード
- 資料―7 関西地区 FD 連絡協議会幹事会 広報ワーキンググループ ワークロード
- 資料―8 平成 27 年度関西地区 FD 連絡協議会予算素案

- 参考資料―1 「関西地区 FD 連絡協議会」規約
- 参考資料―2 関西地区 FD 連絡協議会会費取扱要領

(岡本 雅子)

関西地区FD連絡協議会幹事会（第9回）出席者名簿

平成26年4月14日

| 幹事校名 | 幹事会出席者 | | | 備考 |
|------------------------------|------------------------|-----------------------------------|-----------|-------|
| | 部署名 | 役職 | 氏名 | |
| 大 阪 大 学 | 全学教育推進機構 | 企 画 開 発 部 長 | 竹 村 治 雄 | 常任幹事校 |
| 神 戸 大 学 | 大学教育推進機構 | 教 授 | 山 内 乾 史 | 常任幹事校 |
| 同 志 社 大 学 | 学 習 支 援 ・ 教育開発センター | 事 務 長 | 井 上 真 琴 | 常任幹事校 |
| 立 命 館 大 学 | 教育開発推進機構 | 教 育 開 発 支 援 セ ン タ ー 長 | 沖 裕 貴 | 常任幹事校 |
| 〃 | 教育開発推進機構 | 教 育 開 発 支 援 副 セ ン タ ー 長 | 安 岡 高 志 | |
| 大 阪 府 立 大 学 | 高等教育推進機構 | 学 長 補 佐 ・ 高等教育推進機構長 副 機 構 長 | 高 橋 哲 也 | 幹事校 |
| 〃 | 高等教育推進機構 教 育 推 進 課 | 課 長 | 大 久 保 正 明 | |
| 関 西 大 学 | 教 育 開 発 支 援 セ ン タ ー | セ ン タ ー 長 | 田 中 俊 也 | 幹事校 |
| 〃 | 授業支援グループ | 職 員 | 竹 中 喜 一 | |
| 関 西 学 院 大 学 | 高 等 教 育 推 進 セ ン タ ー | セ ン タ ー 副 長 | 中 野 康 人 | 幹事校 |
| 〃 | 教 務 機 構 事 務 部 | 課 長 | 富 田 則 幸 | |
| 神戸常盤大学・神戸常盤 大 学 短 期 大 学 部 | 保健科学部看護学科 | 教 授 ・ F D 委 員 長 | 畑 吉 節 未 | 幹事校 |
| 龍谷大学・龍谷大学短期 大 学 部 | 大 学 教 育 開 発 セ ン タ ー | セ ン タ ー 長 | 長 谷 川 岳 史 | 幹事校 |
| 〃 | 教 学 企 画 部 | 課 長 | 井 上 弓 子 | |
| 和 歌 山 大 学 | 教 育 企 画 課 | 企 画 係 長 | 上 山 と も 子 | 幹事校 |
| 京 都 大 学 | 高等教育研究開発推進 セ ン タ ー | セ ン タ ー 長 ・ 教 授 | 飯 吉 透 | 代表幹事校 |
| 〃 | 〃 | 教 授 | 松 下 佳 代 | |
| 〃 | 〃 | 准 教 授 | 溝 上 慎 一 | |
| 〃 | 〃 | 准 教 授 | 田 口 真 奈 | |
| 〃 | 〃 | 准 教 授 | 酒 井 博 之 | |

■平成25年度関西地区FD連絡協議会事業報告〔事務局関連〕

| 年月日 | 会議等 | 内容 | 備考 |
|----------|---------|---|--|
| 25.4.15 | 幹事会 | 関西地区FD連絡協議会幹事会(第8回) ①平成24年度活動報告案について ②平成25年度活動方針案について ③平成24年度決算案について ④平成25年度予算案について ⑤次期幹事校の選出について ⑥関西地区FD連絡協議会の今後について ⑦その他 | 会場:京都市本部棟大会議室 ◆平成24年度活動報告案・平成25年度活動方針案の決定 ◆平成25年度予算案の決定 ◆平成24年度決算案の決定 会計監査は監査校(大阪工業大学、近畿大学)により実施のうえ、総会に提出する旨了承 ◆幹事校の継続を決定 ◆関西地区FD連絡協議会の今後について ◆その他 総会におけるポスター発表校について、総会の運営について |
| 25.4.25 | 幹事会【回議】 | 25年度予算案、総会進行手順の修正について | |
| 25.5.9 | 幹事会【回議】 | 新規入会申込について | ◆新規入会:千里金櫛大学 |
| 25.5.18 | 総会 | 関西地区FD連絡協議会第6回総会 ①平成24年度活動報告について ②平成25年度活動方針について ③平成24年度決算について ④平成25年度予算について ⑤次期幹事校の選出について ⑥関西地区FD連絡協議会の今後について ⑦その他 | 会場:京都市時計台記念館国際交流ホール 参加会員校:65校 総会出席者:131名 ①②活動報告(ワーキンググループ) FD共同実施WG:竹村 治雄教授(大阪大学) FD連携企画WG:安岡 高志教授(立命館大学) 広報WG:大久保 敦教授(大阪市立大学) 研究WG:山内 乾史教授(神戸大学) ③平成24年度決算案の承認 会計監査は監査校(大阪工業大学、近畿大学)により実施された旨報告 ④平成25年度予算案の承認 ⑤次期幹事校は現状を維持することについて承認された ※総会に先立ち、講演会が行われた |
| 25.5.29 | (全会員校) | 会費納入のお願い | |
| 25.6.12 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会共催依頼について | ◆共催:関西学院大学 |
| 25.6.12 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会共催依頼について | ◆共催:神戸大学 |
| 25.6.21 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:関西大学 |
| 25.6.21 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会共催依頼について | ◆共催:神戸薬科大学 |
| 25.6.28 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会共催依頼について | ◆共催:大阪工業大学 |
| 25.7.12 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:近畿大学 |
| 25.7.19 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:神戸国際大学 |
| 25.7.25 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:京都大学 |
| 25.9.4 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:京都大学 |
| 25.10.4 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:滋賀県立大学 |
| 25.11.15 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会共催依頼について | ◆共催:関西大学 |
| 25.11.19 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:兵庫教育大学 |
| 25.11.22 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:大阪大学 |
| 25.11.27 | 幹事会【報告】 | 関西地区FD連絡協議会(大学/短期大学(部)併設校)一括取り扱い申し込みについて | ◆一括取り扱い:神戸夙川学院大学・夙川学院短期大学 |
| 25.12.10 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:桃山学院大学 |
| 25.12.13 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会共催依頼について | ◆共催:神戸大学 |
| 25.12.13 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会共催依頼について | ◆共催:神戸大学 |
| 25.12.20 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:関西大学 |
| 26.1.7 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:京都大学 |
| 26.1.10 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会協賛依頼について | ◆協賛:大阪大学 |
| 26.1.10 | 幹事会【回議】 | 退会について | ◆退会:大阪国際大学 |
| 26.1.14 | (幹事校) | 関西地区FD連絡協議会第7回総会の日程について | ◆第7回総会を平成26年5月17日に開催する旨了承 |
| 26.2.14 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会共催依頼について | ◆共催:京都大学 |
| 26.3.4 | 幹事会【回議】 | 退会について | ◆退会:関西国際大学 |
| 26.3.7 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会共催依頼について | ◆共催:羽衣国際大学 |
| 26.3.13 | 幹事会 | 関西地区FD連絡協議会幹事会(第9回)のご案内 | 会場:京都大学吉田南1号館106会議室 ◆平成25年度活動報告案について ◆平成26年度活動方針案について ◆平成25年度決算案について ◆平成26年度予算案について ◆次期幹事校・監査校の選出について ◆その他 |
| 26.3.17 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会共催依頼について | ◆共催:滋賀県立大学 |
| 26.3.25 | 幹事会【回議】 | 関西地区FD連絡協議会共催依頼について | ◆共催:滋賀県立大学 |

FD 共同実施 WG 活動報告・活動方針案

1. FD 共同実施 WG の目的と組織体制

FD 共同実施ワーキンググループは、初任者研修共同実施の企画立案をはじめ、会員校が共同で実施する活動を行っている。ワーキンググループの構成は、昨年度に引き続き、大阪大学（常任幹事校）、関西学院大学（幹事校）、京都大学（代表幹事校）を FD 共同実施部とするものである。

2013 年度 FD 共同実施ワーキンググループの活動目的は以下の 2 点である。ただし、今年度は下記の 2 については申し込みがなく、実施することができなかった。

1. 「初任教員向けプログラム」（通称：カンジュニ）を実施すること（カンジュニについては下記参照のこと）
2. 単独では FD 研修会の開催が困難な大学に対して、研修会開催に向けた様々な支援を行うこと。

初任教員向けプログラムについて

「初任教員向けプログラム（通称：カンジュニ）」は、関西 FD 加盟校で実施されている研修会のうち「大学の所属に関係なく、大学初任教員であれば参加して効果が見込まれる」ものを公開してもらい、それを関西 FD 認定プログラムとするものである。関西 FD では、研修マトリックスを作成、周知することによって、各大学の研修会を相互利用できる機会を提供している（図 1）。

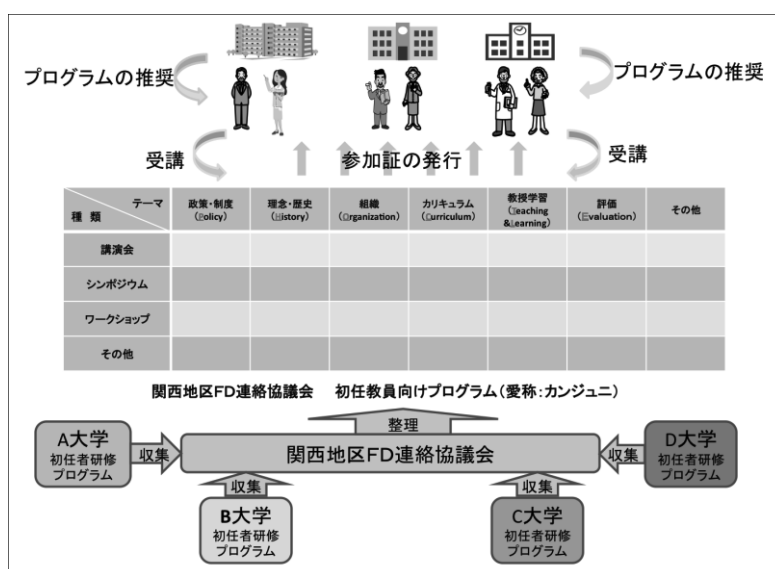


図 1. 初任教員向けプログラムの概略

2. 2013 年度活動報告

2-1. 初任教員向けプログラムの実施

2013 年度の初任教員向けプログラムは 6 回であり、5 校が自校の研修会を公開し、延べ 151 名の参加があった。また昨年度に引き続き、初任教員向けプログラムの評価を行うため、事後アンケートを実施した。開催された講座名、参加者数、アンケート回答者数などは下記の通りである。

表 1 2013 年度 関西地区 FD 連絡協議会初任教員向けプログラム（カンジュニ）
実施状況ならびに、アンケート回答者数

| | 講座名 | 開催大学 | 開催日時 | 参加者数 合計 (名) | 参加者内訳 | | アンケート 回答者 (名) | 無回答者 (名) | 備考 |
|---|---------------------------------------|--------|-----------------|-------------------|-----------------|--------------|---------------------|-------------|---|
| | | | | | 会場校 (名) | 会場校以外 (名) | | | |
| 1 | 共通教育ワークショップ「対話授業とは何か」 | 大阪大学 | 2013.3.19 | 43 | 22 | 20 | 10 | 10 | 非加盟校参加者 1 名 |
| 2 | 「授業の基本」ワークショップ 「授業の基本と授業づくり」 | 滋賀県立大学 | 2013.4.27 | — | — | 26 | 26 | 0 | |
| 3 | 大学生への作文法指導 | 滋賀県立大学 | 2013.6.28 | 46 | 20 | 26 | 18 | 8 | 加盟校外からの参加者 2 名含む |
| 4 | 「授業の基本」ワークショップ 「毎回の授業をつくる基本を学びたい方」 | 神戸薬科大学 | 2013.8.19 | 38 | 23 | 15 | 5 | 10 | |
| 5 | 授業の基本 | 大阪工業大学 | 2013.9.6 | 30 | 23 | 7 | 6 | 1 | |
| 6 | 大学教員のための「講義方法のブラッシュアップ」 | 関西学院大学 | 2013.9.9 ～10 | 51 二日間 延べ | 37 二日間 延べ | 8 | 6 | 2 | 9 日： 関学 22 名 加盟校 8 名 10 日： 関学 15 名 加盟校 6 名 |
| | 計 | | | 208 | 125 | 102 | 71 | 31 | |

カンジュニ開始から 3 年が経過した。昨年度は 100 名弱の参加であったが、今年度は表に示したように、200 名を越える参加があった。参加教職員の所属大学は、28 大学(下記参照)にのぼり、認知度があがってきたことがうかがえる。

また、できるだけ早い段階で HP への情報掲載を行うこと、個人が自由に登録できる ML を

活用することに等によって、必要な情報が必要な人のところに届くように努力してきたが、さらなる認知度の向上をはかっていく必要がある。

＜2013 年度カンジュニ参加者の所属大学＞

池坊短期大学、大阪青山大学、大阪観光大学、大阪工業大学、大阪樟蔭女子大学、大阪保健医療大学、関西大学、関西女子短期大学、畿央大学、京都大学、京都産業大学、神戸医療福祉大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学、滋賀大学、四天王寺大学、聖泉大学、園田学園女子大学、帝塚山大学、東洋食品工業短期大学、奈良文化女子短期大学、梅花女子大学、姫路獨協大学、兵庫教育大学、びわこ学院大学、びわこ学院大学短期大学部、佛教大学

プログラム詳細

(1) 2013 年 3 月 19 日（火） 大阪大学

「対話授業とは何か」 関西 FD からの参加者：20 名

2013 年 3 月 19 日（火）に、大阪大学（豊中キャンパス）ステューデント・コモンズ（総合棟Ⅰ）2 階・セミナー室Ⅰにおいて、平成 25 年度大阪大学共通教育新任教員研修が開催された。

本研修は 2 部構成となっており、第Ⅰ部は大阪大学の共通教育科目を新たに担当する教員向けの研修会であった。関西地区 FD 連絡協議会の共催事業として、第Ⅱ部の平田オリザ教授（大阪大学コミュニケーションデザインセンター）が講師をされた「対話型授業とは何か」が公開され、大阪大学の新任教員等が 22 名、関西地区 FD 連絡協議会加盟校から 20 名、非加盟校から 1 名の合計 43 名の参加があった。

研修会は、劇作家・演出家である平田オリザ教授によってワークショップ形式で進められた。「コミュニケーションデザイン」という視点から、学生参加型・双方向型の授業を行う上で有用な視点を提示するという目的で行われた。まず、近年、学生に求められているコミュニケーション能力とは何かについて説明があった。そののち、実際の授業で活用できる簡単なゲーム、ロールプレイを全員が体験することで、教員と学生および学生間でのコミュニケーションをとる具体的な方法が示された。この体験により、学生の心情がどのように変わるか等の説明があった。その後、教育におけるコミュニケーション授業を導入する際に注意すべきことについての説明があった。質疑応答時間には多数質問がなされ、参加した各自が応用できる多様なヒントを得ることができる内容であった。



（写真およびデータ提供：大阪大学）

(2) 2013 年 4 月 27 日（土）滋賀県立大学

「授業の基本と授業づくり」ワークショップ 関西 FD からの参加者：26 名

滋賀県立大学で「授業の基本と授業づくり」ワークショップが開催された。講師は滋賀県立大学教育実践支援室長の倉茂好匡先生である。研修会の構成は以下の通りである。

第1講 10:10～12:10 授業の基本①ー基本の基本ー

第2講 13:00～14:45 授業の基本②ー授業展開上の罫ー

第3講 15:00～17:45 授業づくりワークショップ

大学が実施した事後アンケートからは、「研修会で得たこと、参考になったこと」として、

- ・授業の導入と教材研究の積極的に工夫することで、楽しい授業に改善できることが実感できた。
- ・授業にはヤマ場を作り出す「構成力」と「発問力」、「板書力」が必要だとよくわかった。
- ・チョークの使い方、声の出し方など基本的な事もよくわかった。
- ・視線、巡回の方法等参考になった。
- ・授業の導入"つかみ"の重要性を改めて実感した。
- ・しっかりと教材研究をして、スムーズにわかりやすい授業を展開したい。
- ・構成によって引き込まれる授業になることが実感できた。
- ・受講する学生の事よりも、教えなければならない量ばかりに気をとられていたことに気付かされた。
- ・宿題も含めた授業計画を立てることの大切さがわかった。

といった回答が見られた。

また、質問事項として、

- ・資料（レジュメ）を配布すると学生が来なくなる（板書しなくなる）傾向があり、どのような資料を配布すれば効果的か。
- ・伝えたい内容が板書では間に合わない場合はどうすればよいか。
- ・授業の終わりに「質問」を尋ねても反応がない場合が多いが、どうすればよいか。
- ・わからなければ研究室に質問しに来るように言ってもこない。どうすれば気軽に来ようにできるか。
- ・授業で行う内容と授業外で学習する内容について、どのくらいの比率で量を配分するのが望ましいか。

といった内容が寄せられた。これらの質問に対しては、後日、講師から質問者に対して個別に回答があった。また、「今後の研修会に期待する内容」として、以下のものが挙げられている。

- ・ディスカッションの進め方について
- ・効果的な宿題の作り方、効率的な朱入れ方法について
- ・視覚教材（パワーポイントなど）を利用した授業方法について
- ・大人数における授業の作り方について
- ・適切なシラバスの書き方
- ・授業外学習への結び付け方について
- ・指導案の書き方について

（データ提供：滋賀県立大学）

（3）2013年6月28日（金）滋賀県立大学

『大学生への作文法指導』 関西FDからの参加者：26名

滋賀県立大学で「大学生への作文法指導」研修会が開催された。講師は滋賀県立大学教育実践支援室長の倉茂好匡先生であり、開催時間は18:30～20:30であった。

研修会では、滋賀県立大学環境科学部環境生態学科で実際に行っている作文力向上のための

カリキュラムを紹介し、うまく文章の書けない学生に対して、「どういう指導をすべきか」という観点から、教育法のヒントが伝えられた。

大学が独自に実施したアンケート結果からは、「研修会で得たこと、参考になったこと」として、

- ・文節、段落、論理に意識を向けさせることが大切だとわかった。
- ・学生の文章のどこを見ればいいのか、どこを指導すればいいのかかわかった。
- ・卒業論文指導に大変役立つと思った。
- ・科学的な日本語作文の指導をする上で、大変参考になった。
- ・中等教育の口語文法や国文法を使い、具体的に説明することで学生の理解につながっていくことが実感できた。

といった感想が挙げられた。また、「時代とともに少しずつ変化する言葉の在り方」や「エントリシートにおける作文法指導」についての質問が寄せられた。さらに、「学生にとってわかりやすい添削指導」「ノートテーキングの訓練法」「学生からの評価をすくい上げる方法」などを、今後の研修会に期待したいという声があった。

(データ提供：滋賀県立大学)

(4) 2013 年 8 月 19 日 (月) 神戸薬科大学

「授業の基本」ワークショップ 関西 FD からの参加者：15 名

神戸薬科大学で「授業の基本」ワークショップが開催された。講師は滋賀県立大学教育実践支援室長の倉茂好匡先生である。開催校が医療系の大学であることから薬学、看護学など医療系学部所属の教員の参加が多くあった。研修会の構成は以下の通りである。

- 第 1 講 10:00～12:00 授業の基本①ー基本の基本ー
- 第 2 講 13:00～15:00 授業の基本②ー授業展開上の罫ー
- 第 3 講 15:15～17:35 授業づくりワークショップ

大学が実施したアンケートには以下のような感想が寄せられた。

- ・板書、視線、巡回の方法等参考になった。
- ・授業案・構成の作り方が参考になった。
- ・これまで自分の経験に基づいて授業をしてきたが、再確認できて良かった。
- ・グループワークを通して、色々な先生方の考え方、取り組み方に触れることができて良かった。
- ・次回はパワーポイントを使用する場合の教授法について詳しく知りたい。

(データ提供：神戸薬科大学)

(5) 2013 年 9 月 6 日 (金) 大阪工業大学

「授業の基本」ワークショップ 関西 FD からの参加者：7 名

大阪工業大学で「授業の基本」ワークショップが開催された。講師は滋賀県立大学教育実践支援室長の倉茂好匡先生である。第 1 講から第 3 講で構成され、第 1・2 講は「授業の基本」に関する講義、第 3 講は「教材研究のグループワーク」となっており、教授、准教授、講師、助教、研究員といった様々な立場の教員が皆一様に熱心に受講されていた。

第 1・2 講を経て、第 3 講では 6 グループに分かれて教材研究のグループワークを行い、最後に各グループで 5 分間のミニ授業を実施した。同じテーマでのミニ授業であったが、6 グループとも個性のある授業が展開され、講師からはそれぞれのミニ授業に対して講評が行われた。

参加者は明るい雰囲気の中、ワークショップ全体を通じて、授業の準備・導入・展開の大切さやチョークの使い方・黒板の板書・話し方など、多くのものを得た様子であった。

研修会の構成は以下の通りである。

第1講 授業の基本① ―基本の基本―

第2講 授業の基本② ―授業で陥りやすい罠―

第3講 教材研究ワークショップ ―グループワークとミニッツレクチャー実技―



チョークで板書するのが苦手だという
参加者が多く、指導に熱心に取り組む姿



ミニ授業後の講師による講評の様子

(写真およびデータ提供：大阪工業大学)

(6) 2013年9月9日(月)～10日(火) 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス

「大学教員のための『講義方法ブラッシュアップ』」 関西FDからの参加者：1日目8名、2日目6名)

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスで倉茂好匡氏(滋賀県立大学環境科学部教授・教育実践支援室長)を講師に迎え、「大学教員のための『講義方法ブラッシュアップ』」のワークショップが開催された。本ワークショップは、専任教員・非常勤講師及び大学で講義担当を目指す大学院生等を対象としたもので、1日目のみ、2日間連続参加の選択が可能で、発声、板書、立ち位置といった基本的なことから、授業構成、発問、教材研究といった内容について実習を交えて、「講義方法のブラッシュアップ」を行うことを目的としている。内容は以下の通りである。

9月9日(月)

講義「基本の基本」

講義「授業展開で陥りやすい罠」

ワークショップ「教材研究」

9月10日(火)

講義「発問法、アクティブラーニング法」

グループワーク「授業の完成」

授業発表会

なお、大学が実施したワークショップ終了後のアンケートにおいて、参考になったという主な意見は以下のとおりであった。

- ・教材の見せ方、資料の見せ方が勉強になりました。
- ・もっと早くこのレクチャーを受けておくべきだと思った。
- ・チョークの持ち方や立ち方など基本的なことから教えていただき、ヒントをいただきました。

- ・発問のポイントやアクティブラーニングのポイントが参考になった。
- ・学生に資料を読ませる工夫や課題の出し方が参考になった。また、グループワークを行うことで、ほかの大学の学生の様子や先生方から話を聞くことができてよかった。

(データ提供：関西学院大学)

2-2. 初任教員向けプログラムの評価：事後アンケート結果

初任教員向けプログラムに参加した教職員に対して、事後アンケートを実施した。会場校以外からの参加者である102名の参加者に対して共同実施 WG よりアンケート回答を依頼し、合計 71 名から回答を得た。

アンケート結果からは、新任教員のみならず多くの教職員の参加があること、口コミでの参加が増えてきたこと、参加者の満足度がとても高いこと、などがうかがえた。回答の詳細は以下の通りである（欠損値あり）。

2-2-1. 参加者の職階

助教、講師といった若手に属する職階が多いが特に偏っているというわけではないことがわかる。なお、これらの参加者は、開催校の参加者を含まない人数であることを確認しておきたい。

| | |
|-------|-------------------|
| 教授 | 16 名 |
| 准教授 | 13 名 |
| 助教 | 10 名 |
| 講師 | 25 名（うち、テニユア 1 名） |
| 助手 | 1 名 |
| 研究員 | 1 名 |
| 学振 PD | 1 名 |
| 事務職員 | 3 名 |

2-2-2. 参加者の立場

「あなたはどのような立場で本研修会に参加しましたか。」という設問に対する回答は以下の通りであった。（ ）内は昨年度アンケート結果の数値である。本制度は、新任教員向けとしているものの、昨年度と同様、新任教員に限らず、研修会に関心をもって参加した教員も多くいることが明らかとなった。

1. 新任教員として：32 名（←13 名）
2. 学内の FD 担当委員として：11 名（←4 名）
3. 新任教員ではないが研修会に関心を持って：32 名：（←13 名）
4. 事務職員として：2 名（←1 名）
5. その他：1 名

2-2-3. 研修会をどのようにして知ったか

「あなたはこの研修会のことをどのようにして知りましたか。」という設問に対する回答は以下の通りであった。（ ）内は昨年度アンケート結果の数値である。昨年度に学内向けポスタ

一を作成、送付したため、学内のビラやポスターから知ったという教員がやや増えている。大幅に増えているのは、「その他の教職員から」である。他項目の自由記述などもあわせて推察すると、以前に参加した教職員から薦められたといった口コミでの参加が増えてきた可能性が示唆できる。

1. 学内のビラ・ポスターから：10名（←3名）
2. 関西FDのHPから：3名（←1名）
3. FD業務を担当する教職員から：11名（←19名）
4. その他の教職員から：31名（←2名）
5. 関西FDからのEメールによる案内で：9名（←7名）
6. その他（講師に直接薦められて、等）：4名

2-2-4. 参加のきっかけ

「あなたがこの研修会に参加したきっかけは何ですか。」という設問に対する回答は以下の通りであった。（ ）内は昨年度アンケート結果の数値である。「大学から参加の指示があったから」という理由は、本制度が学内のFD活動の一環として利用されてきたことを推察させるものである。一方で、こうした外発的なものではなく、「自分の教育能力を高めたかったから」「研修会の内容そのものに興味をもったから」といった内発的な理由による参加も多い。

1. 大学から参加するよう指示があったから：14名（←3名）
2. FD担当委員の業務として参加する必要があったから：7名（←2名）
3. 自分の教育能力を高めたかったから：50名（←24名）
4. 大学教育を考える機会が欲しかったから：20名（←11名）
5. 実際に教育を行う上で悩んだり困ったりしたことがあるから：34名（←12名）
6. 研修会の内容そのものに興味をもったから：41名（←15名）
7. 他大学の研修会に参加してみたかったから：8名（←5名）
8. その他（同じ講師の別な研修を受けた人からよかったとの話があったから）：1名

2-2-5. 制度についての評価

「今回のような他大学の研修会を受講できる制度について、ご意見・ご感想があればお書きください。」という設問に対しては以下のような記述が寄せられた。制度を評価し、継続や広がりを目指す声が多く見られた。

| 記述内容 | 回答者 所属 | 職階 | 回答者の 教育歴 (年) |
|---|-----------|------|--------------------|
| 非常にありがたいです。もっと活用していこうと検討しております。本学はFD活動があまりできておらず、自前はなかなか厳しいので、まずは他大学様のお力をお借りし、ゆくゆくは本学も何かしらご提供できるようになれば、と思います。 | 私立 大学 | 事務職員 | - |

| | | | |
|--|--------|------|-----|
| 非常に良い制度だと思います。他大学の素晴らしい取り組みについて、学会などのご発表だけでなく、研修という機会を設けていただけたこと感謝しております。また機会があれば参加をしたいと思います。 | 私立大学 | 事務職員 | - |
| 非常に有意義だと思います。もっとこのような機会をつくっていただければと思っています。 | 私立大学 | 事務職員 | - |
| 自由にこのような研修会に参加できることは非常にありがたい。ぜひ、続けてほしいと思います。 | 国立大学 | 研究員 | - |
| 今回はじめて参加させていただいたが、とても有意義であった。今回はたまたま情報が得られたが、研究員には情報が入らないのでしょうか。非常勤講師を担当している人もいるので、こういった研修の紹介があってもよいのではないかなと思う。 | 国立大学 | 研究員 | 0 |
| 他大学での先生からの日頃の講義で気になっている点について話を聞く中で、各大学や学部により、求められる教育内容がかなり異なっていることを改めて感じる事ができ、良い機会になったと思う。 | 国立大学 | 学振PD | 0 |
| 開かれた研修会というイメージがあります。他大学で実施されていることはなかなか個人で知ることは難しく、単なるうわさ話で終わってしまうことが多々あります。しかし、このように他大学の研修会を制度化されたものとして徴候することは、よい実行内容を正しく共有でき、また学ぶことができるという意味で大変有意義であると思います。 | 私立大学 | 助教 | 0 |
| 今後ともぜひ続けて頂きたいです。 | 私立大学 | 助教 | 0 |
| 自分の大学の中だけでなく、他大学の現状を知れたり、先生方と接して情報交換ができるので、とても良い制度だと思う。 | 私立短期大学 | 講師 | 0 |
| 他大学の施設を見たり、教職員の方と交流して、知見を広げることができ、良いと思う。 | 私立大学 | 教授 | 0.1 |
| 素晴らしい制度だと思います。是非、他の研修会にも参加したいと思います。 | 国立大学 | 講師 | 0.5 |
| 大変素晴らしいと思います。私はFD委員でもありますが、まだ教育歴が浅いので、他大学での初任者研修としてどのような事が行なわれているのかという事よりも、関西圏内の大学でこういった初任者研修が行われ、無料で利用できる環境にあるという事が大変ありがたいです。また日程が合えば参加したいと思います。 | 私立大学 | 講師 | 0.5 |
| もっと、いろんな内容で実施してもらえると嬉しいです。 | 国立大学 | 講師 | 1 |
| 機会があれば受けたいと思っています。 (2日間連続の研修があると聞きしましたので) | 私立大学 | 助教 | 1 |
| 他校の事情等も知る機会が出来るので、大変良いことだと思いました。 | 私立大学 | 講師 | 1 |
| 大変ありがたいです。 | 私立大学 | 助教 | 1 |

| | | | |
|---|----------|--------------|-----|
| 非常に、ありがたいことだと思います。今後も、ぜひ、続けていって欲しいと思います。 | 私立 大学 | 講師 | 1 |
| 自分の所属する大学では、女子学生に限られるため、他大学での研修を受講し、いろいろ比較しながら考える機会を得られることは大変有意義である。 | 私立 大学 | 教授 | 1.5 |
| 内容が良かったのでありがたいですが、電車はともかく路線バスの時刻について調べるのが手間取ったので、できれば案内していただきたい。 | 私立 大学 | 講師 | 2 |
| 普段とは違った視点や環境で自分自身を見直すことができるので、とても、良い制度であると思います。 | 私立 大学 | 教授 | 2 |
| ホームページを細目にチェックしたいと思います。 | 私立 大学 | 助手 | 3 |
| 今回のように、いくつかの大学から新採用教員を集めてFDを行うこと自体は、個別の大学で行うよりも、コストを抑えることができる点で合理的か。一方で、大学内で他学部・学科の教員とのコミュニケーション不足はどの大学でもよく聞く話なので、各大学で、若手教員が集まって、授業について交流する場を組織し、それをきっかけに学内のコミュニケーションを活性化し、より良い大学を模索することも有効なのではないかと考えた。 | 私立 大学 | 講師（テ ニユア） | 3 |
| 情報交換の場として有益だと思う。 | 私立 大学 | 講師 | 3 |
| 大変感謝しております。 | 私立 大学 | 助教 | 3 |
| とても良いと思います。他の大学の人が講義で体験していることもわかるし今後の参考になります。 | 国立 大学 | 助教 | 4 |
| 今回のように広域的に行い、複数の大学の協同開催をすることで研修を受ける機会が広がるのでとてもいい制度だと思います。 | 私立 大学 | 助教 | 4 |
| 自分の所属する学校とは違った取り組みがあることを知る機会になりよいと思う。 | 私立 大学 | 助教 | 4 |
| ぜひとも、この制度を続けていただきたい。 | 私立 大学 | 講師 | 5 |
| 様々な大学での研修に参加し、研修はもちろんですが、意見交換等もしていきたいと考えております。 | 短期 大学 | 講師 | 5 |
| 開催大学のご負担になるかと思いますが、大学によりFD活動の活発さにかなり差がある現状では、FD活動が低調な大学に属する者として大変ありがたく思います。他大学の研修会に参加させていただくことを通じて、FD活動への理解者を増やし、教育の質の向上と自校でのFD活動の活発化につながればよいと考えております。 | 私立 大学 | 教授 | 6 |
| 今後も開催してほしい。 | 私立 大学 | 講師 | 6 |
| なかなか自校単独ではできない現状がありますので、このような制度があると気軽に参加させていただけるので大変有難いです。 | 私立 大学 | 講師 | 7 |
| よいシステムだとも思います。 | 私立 | 准教授 | 7 |

| | | | |
|--|----------------|-----|----|
| | 大学 | | |
| 今回の研修のように、学外研修会があれば積極的に参加したい。 | 私立 大学 | 講師 | 7 |
| 学内でもさまざまな取り組みが行われておりますが、企画側の限界（？）もあり、繰り返しやマンネリの感も見受けられます。他大学の研修会への参加は、情報交換や交流の意味もあって、とても良いと思います。専門領域の世界という狭い範囲での発想に固まらず、他の立場の考え方や理解の仕方など、学べき事はおおいにあると思います。さらに、自分自身の好奇心も刺激されます。今後も、この制度をますます活発にさせていただけたらと考えております。 | 私立 短期 大学 | 講師 | 7 |
| 次回もぜひ参加したいです。夜だったせいもあると思いますが、参加者が少なかったのがもったいないと思います。 | 私立 大学 | 講師 | 8 |
| ノウハウを自校のみで囲い込むのではなく、ほかの大学にも開放して下さるのはとても素晴らしいことだと思いますし、僕個人としてもありがたいです。 | 私立 大学 | 准教授 | 8 |
| 様々な大学の教育内容がわかり、よいと思います。 | 私立 大学 | 講師 | 8 |
| 初めて他校の研修会に参加させていただきましたので、全てが目新しく、実施校と本校との違いや本校の特色を改めて考える機会になりました。ありがとうございました。このような研修会が多くあれば、大学教育全体の底上げに繋がると思いました。 | 国立 大学 | 准教授 | 10 |
| 学内だけでは研修にどのような問題点を取り上げるかという選択の幅に限界があり、また、研修を受ける機会の数も限られてしまうので、他大学の研修を受講させていただけるのは大変ありがたいです。 | 私立 大学 | 准教授 | 10 |
| 他大学のキャンパスに行き、話を聞くということは、マンネリ打破に良いことだと思います。 | 私立 大学 | 准教授 | 10 |
| とても良いと思います。また参加させていただきたいと思います。 | 私立 大学 | 講師 | 11 |
| 他大学の研修会を受講できる機会は大変ありがたく、有意義でした。日程があれば、今後も積極的に参加させていただきたく希望しております。 | 私立 大学 | 講師 | 12 |
| 自身の大学での研修は年に2回程度で、内容も限られるため、他大学の研修を受講できるのは、とても良いシステムだと思います。 | 私立 大学 | 教授 | 13 |
| 有意義な制度であり、今後も活用したい。 | 私立 大学 | 教授 | 14 |
| いろんなテーマでこれからも続けて欲しいです。 | 私立 大学 | 講師 | 15 |
| よいことだと思います。 | 私立 大学 | 教授 | 17 |
| 今後とも、この制度を続けてくださいますよう、お願いいたします。 | 私立 大学 | 教授 | 17 |
| このような機会をいただき、制度を作られた方、準備された方皆様に感謝しております。今後も引き続き開催していただけたらと思います。 | 私立 大学 | 准教授 | 18 |

| | | | |
|---|------|-----|----|
| 教員である私は、とても担当科目が多く、通常の期間の研修会には参加できません。今回のようなタイミングで行っていただけると参加しやすかったです。 | 私立大学 | 准教授 | 18 |
| とてもよいと思います。 | 私立大学 | 准教授 | 19 |
| たいへんいい試みだと思う。 | 私立大学 | 教授 | 28 |
| よい取り組みだと思いました。 | 私立大学 | 講師 | 31 |
| なかなか他大学の研修会に参加する機会がないので、どの学部・学科でも共通して研修できる内容であれば、このような制度があることは大変よい機会になる。お世話される大学は大変であろうが、とてもありがたい制度である。 | 私立大学 | 准教授 | 32 |
| 兵庫県から参加しましたが、少し遠かったので、もう少し近くでしていただく機会があればありがたいです。 | 私立大学 | 教授 | 35 |
| たいへんありがたいことです。 ぜひこういう機会を増やしていただきたい。 | 私立大学 | 教授 | 36 |
| 近隣の大学で、気楽に相談できる機会があればいいと思います。 | 私立大学 | 講師 | 37 |
| 大変興味深く、よいシステムであると考えている。 | 私立大学 | 講師 | 38 |
| 大変良かった。時間と場所の設定が難しいと思われるが、せっかく集まっても2時間弱で、もっとゆっくり話し合いとかできたらと、もったいなかった。 | 私立大学 | 准教授 | 42 |

3. 2014 年度活動方針案

3-1. 初任教員向けプログラムの充実と拡大

現行の「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」の企画・運営と評価、FD 研修会開催支援を継続させる。そして、「初任教員向けプログラム」への参加プログラムを増加させるとともに、すでに参加されているプログラムの充実を目指す。具体的には、

1. 「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」を広報し、多くの大学からの参加を促す。
2. ニーズのあるプログラムの新規開発を支援し、「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」を充実させる。
3. 「初任教員向けプログラム（カンジュニ）」に公開されているプログラムについて、希望により事後検討会を実施し、プログラムの充実をはかる。

3-2. 予算（案）

1. プログラム広報のための費用
2. プログラムの新規開拓のための費用
3. 事後検討会（研究会）開催のための費用（5 回程度実施）

関西 FD 共同実施 2014 年度予算案

| 品目 | 内訳 | 金額 |
|----------------------------------|-------------------------|----------|
| 1 初任教員向けプログラム (カンジュニ) 広報 | パンフレット・ポスター・ホームページ作成・発送 | ¥150,000 |
| 2 初任教員向けプログラム 新規開拓のための費用 | 研修会参観交通費 | ¥10,000 |
| | 研修会開催補助(講師謝金、広報等) | ¥50,000 |
| | アルバイト謝金(1名×3回) | ¥30,000 |
| 3 事後検討会(研究会)開催 のための費用(5回程度実施) | 雑費 | ¥10,000 |
| 合計 | | ¥250,000 |

※「1. パンフレット・ポスター・ホームページ作成・発送」は 2010 年・2012 年度の実績より算出

※「3. 雑費」は事後検討会時のお茶やお菓子、資料印刷代など(1回 2000 円×5回)

以上

FD 連携企画 WG 2013 年度活動報告・2014 年度活動方針案

2014.4.14 幹事校会議

立命館大学、関西大学、神戸常盤大学、京都大学

1. FD 連携企画 WG の目的と組織体制

1-1. 目的

FD 連携企画 WG の目的は、関西地区 FD 連絡協議会の会員校のうち、共通のテーマ（問題別、アプローチ別、組織別、ディシプリン別など）を抱える大学がグループを作り、協働で問題への対処に取り組むことである。そのため、一回限りのイベントではなく、継続的に情報交換しながら、協働的に教育改善・FD を進めるための緩やかなコミュニティ形成を支援する。テーマの一般化を急がず、できるだけ各大学のローカルティに根ざしたコミュニティとなるようにする。また、できるだけ、まだ組織化されていないテーマを掘り起こすようにする。

1-2. 組織体制

FD 連携企画部と FD 連携企画ワーキンググループ (WG) は、2014 年 4 月現在、以下の大学で構成されている（氏名は代表のみ、敬称略）。

◇FD 連携企画部

- ・立命館大学（安岡高志）……責任校
- ・関西大学（田中俊也）
- ・神戸常盤大学（畑 吉節未）
- ・京都大学（松下佳代）……事務局

◇関西 FD パイロット校

- ・神戸常盤大学（松田光信）：2008.5～（2011.5 更新）
- ・藍野大学医療保健学部理学療法学科（平山朋子）：2009.3～（2012.4 更新）
- ・大阪府立大学（新井隆景／高橋哲也）：2012.1～

※パイロット校の認定期間（3 年間・更新可）

◇FD 連携企画 WG

上記の 6 校

＋京都精華大学共通教育センター（高橋伸一）……2011 年度より参加 計 7 校

2. 2013 年度活動報告

2-1. ワークショップの開催

2013 年 12 月 14 日（土）に、関西大学・津田塾大学共同主催、関西地区 FD 連絡協議会共催で、「思考し表現する学生を育てる V ーレポート・ライティングに関する授業設計を考える」を関西大学千里山キャンパスにて開催した（タイムテーブルについては、別紙チラシを参照）。参加者は、51 名であった。詳細は、本協議会の『ニュースレター』11 号（2 月 14 日）、および開催校からの「活動報告」（http://www.kansai-fd.org/activities/wg/fdwg_1/report_20131214.html、別紙）で報告済みである。

＊文部科学省大学間連携共同教育推進事業「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」（関西大学・津田塾大学）の一環として実施。

2-2. 『ライティング指導のヒント』の普及

昨年度末に刊行した、関西地区 FD 連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター編『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』（ミネルヴァ書房、2013 年 3 月、A5・272 ページ、定価 2,800 円）について、上記ワークショップや大学コンソーシアム京都主催「FD フォーラム」等の機会での普及をはかった。こうした努力のかいもあって、近く重版される予定である。

初版は印税なしであったが、重版以降は、編者および著者に印税が支払われる。なお、編者への印税は、実質的に編集作業を行った 3 名（松下佳代・坂本尚志・田川千尋）に支払われる予定である。

3. 2014 年度活動方針（案）

3-1. ワークショップの開催

関西地区 FD 連絡協議会主催ワークショップ

「思考し表現する学生を育てる VI—コピペではなく自分の頭で考えさせるためのライティング指導—」（仮）

- ・日時：2014 年 12 月 7 日（日）、20 日（土）、21 日（日）のいずれかで調整中
- ・場所：京都大学吉田南キャンパス（予定）
- ・定員：40 名程度
- ・タイムテーブル（案）

13:30～13:40 開会挨拶、趣旨説明

第 1 部 講演

13:40～14:10 事例紹介 1 「大学における Personal Writing 導入の意義—『文章表現者としての主体形成』をいかに促すか—」谷美奈氏（帝塚山大学）

14:10～14:40 事例紹介 2 「『思考の型』をいかに学ばせるか—哲学系科目におけるライティング指導—」坂本尚志氏（京都薬科大学）

14:40～15:00 質疑応答

第 2 部 ラウンドテーブル

15:15～15:25 課題説明

15:25～16:25 グループワーク

16:25～16:50 各グループからの報告

16:50～17:20 全体討論、講師からのコメント

17:20 閉会挨拶

3-2. 関西 FD パイロット校の活動

昨年度に引き続き、パイロット校は以下のテーマで活動を行い、WG はその活動を支援する。

| | |
|------------------------|---|
| 神戸常盤大学・ 神戸常盤大学短期大学部 | FD の学科間連携 |
| 藍野大学 医療保健学部理学療法学科 | 学生の学習成果の評価（OSCE）にもとづく授業改善や科目間連携 |
| 大阪府立大学 | IR（Institutional Research）にもとづく授業・カリキュラム改善、学士の質保証 |

4. 会計報告と予算案

4-1. 2013 年度会計報告

【支出】

- ・『ライティング指導のヒント』4冊購入：計 8,960 円
*2,240 円（2,800×0.8）/冊×4冊

【収入】

- ・『ライティング指導のヒント』4冊販売：計 10,000 円
*2,500 円/冊×4冊

→差額 1,040 円を本協議会に納入

4-2. 2014 年度予算案

【支出】

| 費 目 | | 金 額 |
|-------|---------------------|---------|
| 旅 費 | ファシリテータ旅費 (関西6名) | 12,000 |
| | 講師旅費(関西2名) | 4,000 |
| 謝 金 | 講師謝金(関西2名) | 20,000 |
| | アルバイト | 20,000 |
| 事業推進費 | 設営・資料集代等 | 70,000 |
| | ポスター・チラシ | 10,000 |
| | 消耗品(文房具等) | 5,000 |
| 計 | | 141,000 |

【収入】

| 費 目 | | 金 額 |
|-------|--------------|--------|
| 参 加 費 | 会員校参加者(25名) | 0 |
| | 非会員校参加者(15名) | 15,000 |
| 計 | | 15,000 |

広報ワーキンググループ活動報告・活動方針案

1. 広報ワーキンググループ（WG）の目的と組織体制

1-1. 目的

広報 WG は、本協議会に関する広報業務をおこなう。具体的には、(1) ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理、(2) ニュースレターの発行（年 2 回）、(3) FD 活動報告会の関連業務（MOST 講習会の共催、報告書作成）を実施する。

1-2. 組織体制

広報部は以下のように構成されており、2014 年 4 月現在、部と WG の構成員は一致している（敬称略）。

- ・大阪市立大学（大久保敦）…責任校
- ・和歌山大学（藤永博）
- ・京都大学（酒井博之、田中一孝）…連絡担当

2. 2013 年度活動報告

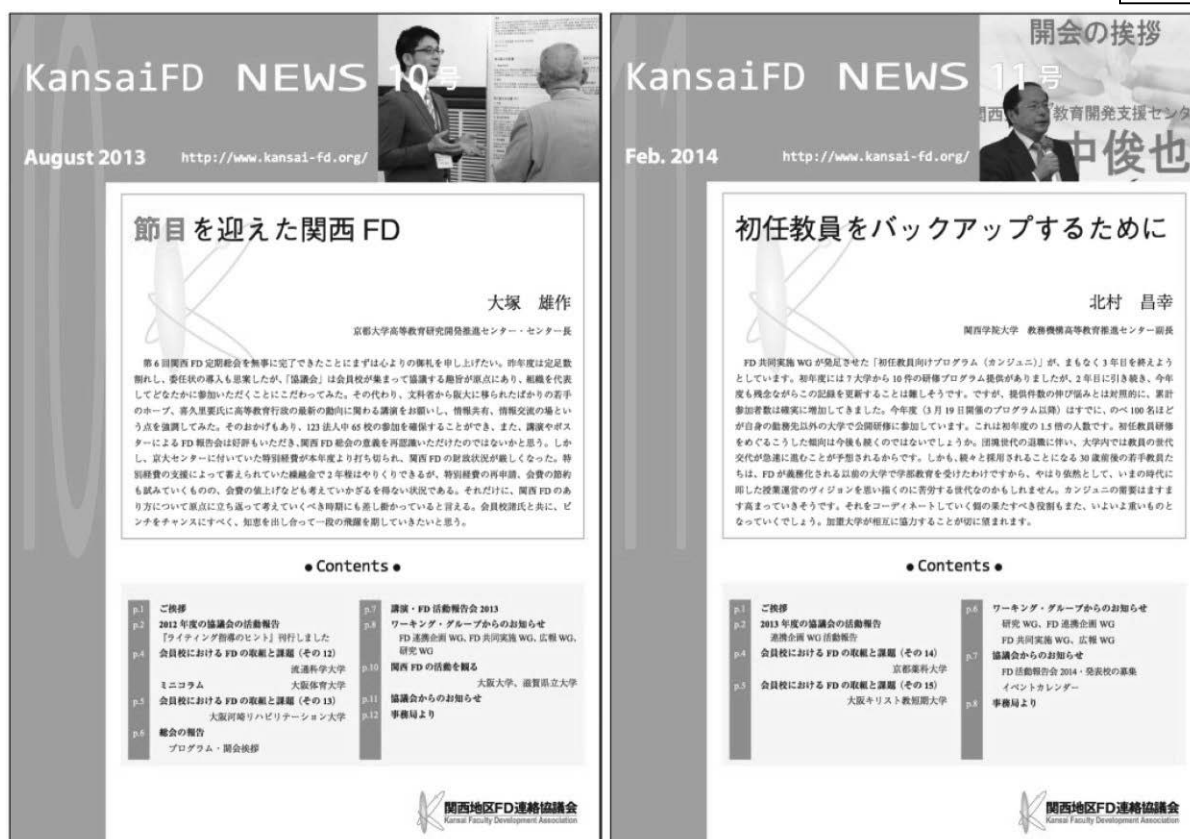
2-1. ニュースレターの発行

ニュースレターについては、第 10 号（9 月、編集責任者：大久保敦（大阪市立大学））、第 11 号（2 月、編集責任者：大久保敦（大阪市立大学））の 2 号を発行した（図 1）。今年度より電子媒体（PDF ファイル）での刊行とし、全会員校および原稿執筆者宛にメールで周知した。また、ニュースレターの PDF 版は協議会ウェブサイトへ掲載し一般公開した。

2013 年度は、前年度に引き続き、協議会が企画・実施したイベント等の活動報告や、各 WG からのお知らせのほか、会員校間の FD 活動に関する情報共有を促進するため、個別の会員校における FD の取り組み紹介を充実させてきた。第 10 号（タイトル：「節目を迎えた関西 FD」）では、第 6 回総会、本協議会主催イベントの報告に加え、流通科学大学、大阪河崎リハビリテーション大学、大阪体育大学、大阪大学、滋賀県立大学より活動報告がなされた。また、FD 連携企画 WG の活動成果をまとめ、ミネルバ書房より刊行された「思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント」の報告がなされるとともに、総会と同日に開催された「FD 活動報告会 2013」についての報告もなされた。第 11 号（タイトル：「初任教員をバックアップするために」）では、FD 連携企画 WG によるワークショップ開催の報告のほか、京都薬科大学、大阪キリスト教短期大学より活動報告がなされた。

2-2. ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

本協議会ウェブサイト（<http://www.kansai-fd.org>）の維持・管理を随時おこなった（図 2）。2013 年度は、ウェブサイトの継続的なコンテンツの更新をおこなった。



(a) 第10号

(b) 第11号

図1 関西地区FD連絡協議会 ニュースレター



図2 関西地区FD連絡協議会 ウェブサイト

2-3. 「FD 活動報告会」関連業務

2013 年度総会にて開催された FD 活動報告会 2013 の報告書(2013 年度より PDF 版のみ)を作成し、ニュースレター第 10 号と合わせて会員校にメールで配信した。また、FD 活動報告会におけるポスター発表の原稿作成は MOST (<https://most-keep.jp>) を利用することが推奨されており、システム利用のための講習会を 3 月 14 日に京都大学高等教育研究開発推進センターと共催した。MOST 講習会のプログラムを資料に示す。

3. 2014 年度活動方針案

3.1 ニュースレターの発行

本協議会のニュースレター（PDF 版）を 2 度発行する。前年度に引き続き、本協議会における活動報告のほか、会員校で実施されている FD の取り組み紹介の充実を図る。ウェブやメーリングリストを通じて会員校の構成員に広く配信する。

・第 12 号（7 月頃）

内容（案）：2014 年度総会報告、協議会活動報告、会員校取り組み紹介など

※「FD 活動報告会 2014」の報告書（PDF 版）と同報する予定

・第 13 号（1 月頃）

内容（案）：協議会活動報告、会員校取り組み紹介など

3.2 ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

ウェブサイトの一部改修をおこなう。

前年度に引き続き、協議会ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理をおこなう。

3.3 FD 活動報告会の関連業務

2014 年度の総会と合わせて開催される「FD 活動報告会 2014」の報告書を作成し、ニュースレター第 12 号に同報する形で会員校に送付する。ニュースレター同様、PDF 版のみの作成とする。また、翌年度の報告会のための MOST 講習会を京都大学と共催する。

4. 2014 年度予算（案）について（別紙参照）

◆2014 年度予算（案） 536,270 円

1) ウェブサイト関連

- ・ ドメイン維持費 年額 4,620 円
- ・ サーバー維持費 年間 50,400 円 (@4,200 円×12 ヶ月)
- ・ サイト改修費 150,000 円

2) ニュースレター関連

- ・ ニュースレター第 12 号作成費 63,000 円 (12 頁、PDF 版のみ)
- ・ ニュースレター第 13 号作成費 42,000 円 (8 頁、PDF 版のみ)
- ・ 総会テープ起こし費 26,250 円

3) 「FD 活動報告会 2014」 関連

- ・ 報告書作成費 200,000 円 (PDF 版のみ)

※FD 活動報告会の会場設営費・アルバイト費等は除く

以上

研究ワーキンググループ(WG)2013 年度活動報告

・ 2014 年度活動計画(案)

研究ワーキンググループ(WG)は、2013 年度、関西地区 FD 連絡協議会第 6 回総会(5 月 18 日)において承認された活動方針に基づいて、「FD メディア研究 SG」(主査校：大阪成蹊大学)、「FD デザイン研究 SG」(主査校：神戸大学)の二つのサブグループを中心に活動を行った。なお、研究 WG、各研究 SG の活動等については、関西地区 FD 連絡協議会の各 WG の活動に関するホームページ(<http://www.kansai-fd.org/wg/>)に掲載されている。

1. FDメディア研究SG

FD メディア研究 SG は、出欠確認研究 SG から名称を改めて 4 年目を迎えた。2013 年 12 月 13 日大阪成蹊大学にて開催された通算 21 回目の会合では、倉茂好匡氏(滋賀県立大学)による「滋賀県立大学環境科学部環境フィールドワーク科目でのモバイルアンケート導入について一導入成功の道筋と、その後の展開」、青森共同計算センターによる「モバイル端末による出欠確認、アンケート、新機能」の発表があり、活発な質疑応答が行われた。また、今年度も出席登録画面から連続して授業評価アンケート入力画面を表示する、「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」の見学会が、大阪成蹊大学で前期 2 回(2013 年 6 月 7 日に 2 回)・後期 3 回(2013 年 11 月 5 日、11 月 6 日、12 月 13 日)開催された。

2. FDデザイン研究SG

FDデザイン研究SGは、今年度、神戸大学大学教育推進機構主催で、FD講演会を3回(2013 年9月19日、2014年2月3日、2014年3月17日)開催した。以下に、各講演会の詳細を挙げる。

講演会 1

- ・ 日時：2013年9月19日(木) 10:40～12:10
- ・ 場所：神戸大学大学教育推進機構 C棟401号室
- ・ 主催者：神戸大学大学教育推進機構
- ・ タイトル：「学生の学習支援について-教育学の知見を基盤とした学際的なアプローチ-
- ・ 講師：山内祐平(東京大学大学院情報学環准教授)
- ・ 内容：

神戸大学では、アクティブ・ラーニングやラーニング・コモンズなど授業外学習の支援を年次計画に掲げて、全学的にそれを推進しようとしている。本講演では、このような取り組みの一環として、東京大学駒場キャンパスの実践などを含めて、「反転授業」などに早くから着目し行われてきた意欲的な実践・研究について話していただいた。

【研修マトリックス】

〔種 類〕 講演会

〔テーマ〕 教授学習

講演会 2

- 日時：2014年2月3日15:10～16:40
- 場所：神戸大学大学教育推進機構 C棟401号室
- タイトル：「高等教育進化論：グローバル化・オープン化・フラット化の時代に大学・教員・学生はどう変わるのか」
- 講師：飯吉透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
- 内容：

テクノロジーの進歩、労働市場のグローバル化などによって、大学の研究面だけでなく教育面でも急速にグローバル化が進行している。MOOCなどテクノロジー面での進歩が大学教育にどのようなインパクトをもたらし、教員や学生がどのように変わるのかを、話していただいた。

研修マトリックス

形態：講演会

テーマ：教授学習（TL）

講演会 3

- 日時：2014年3月17日15:10～16:40
- 講師：米川英樹（日本学生支援機構理事）
- 場所：神戸大学大学教育推進機構 C棟401号室
- タイトル：「グローバル人材育成とJASSO」
- 内容：

グローバル化の進む中、日本人学生の海外留学を促進しようという動きが各大学に見られる。この中で重要な役割を果たすのが JASSO である。JASSO は、奨学金貸付事業がとかくクローズアップされがちであったが、国際交流の促進においてもきわめて重要な役割を担っている。JASSO の国際交流担当理事である講師にグローバル人材育成に果たす JASSO の役割と今後の課題について話していただいた。

研修マトリックス

形態：講演会

テーマ：政策・制度（P）

3. 研究WGの2014年度の活動計画（案）

3-1. 研究WGの活動方針

- 昨年度実績に鑑み、本年度も引き続き、「FD メディア研究 SG」、「FD デザイン研究 SG」の二つの SG において、共同研究活動を推進する。研究 WG は、その活動に必要な支援を行う。
- 本研究 SG の活動内容は、関西 FD のホームページに掲載すると共に、公開研究会や大学教育研究フォーラム（京都大学）の場などを利用して、共有を図る。
- 本年度は、特に新規の SG を作ることはしないが、新規 SG の立ち上げ希望も含めて、総会終了後、早い時期に、研究 SG への参加募集案内を、関西 FD のメーリングリストを通じて行う。

3-2. 「FDメディア研究SG」の計画案

- SG 研究会を 4 回開催する。ケータイ等を利用した授業アンケート、出欠確認の見学会を 2 回 4 日間開催する。
- 研究会で新規活動テーマなどを検討する。

3-3. 「FDデザイン研究SG」の計画案

- SG研究会を2～3回程度開催する。また、大学教育研究フォーラムなどのラウンドテーブルなどで、研究成果の一端を報告する。
- FDの評価（授業評価を含む）や成果の検証やティーチング・ポートフォリオについてFDのデザインやコンセプトとあわせて検討し、その成果を来年3月に京都大学で開催される大学教育研究フォーラム等で報告できればと考えている。

3-4. 研究WGの予算案

- 会合開催費（資料代・お茶代）、および、講師謝金・旅費を必要とする。会議・研究会等10回程度の会議費（5,000円×6回＝30,000円）、外部講師招聘（旅費・謝金等＝100,000円）、Saai-MASシステム利用費（100,000円）、計230,000円。

関西地区FD連絡協議会幹事会（第10回）出席者名簿

平成26年12月1日

| 幹事校名 | 幹事会出席者 | | | 備考 |
|------------------------|------------------------------|---------------------------------|-----------|-------|
| | 部署名 | 役職 | 氏名 | |
| 大 阪 大 学 | 全学教育推進機構 | 企 画 開 発 部 長 | 竹 村 治 雄 | 常任幹事校 |
| 大 阪 市 立 大 学 | 大 学 教 育 研 究 セ ン タ ー | 学 長 特 別 補 佐 ・ 副 所 長 ・ 教 授 | 大 久 保 敦 | 常任幹事校 |
| 神 戸 大 学 | 大学教育推進機構 | 副 機 構 長 | 大 野 隆 | 常任幹事校 |
| 〃 | 大学教育推進機構 | 教 授 | 山 内 乾 史 | |
| 同 志 社 大 学 | 学 習 支 援 ・ 教 育 開 発 セ ン タ ー | 事 務 長 | 井 上 真 琴 | 常任幹事校 |
| 立 命 館 大 学 | 教育開発推進機構 | 教 育 開 発 支 援 セ ン タ ー 長 | 沖 裕 貴 | 常任幹事校 |
| 大 阪 府 立 大 学 | 高等教育推進機構 | 学長補佐/高等教育推進 機 構 副 機 構 長 教 授 | 高 橋 哲 也 | 幹事校 |
| 〃 | 高等教育推進機構 | 准 教 授 | 深 野 政 之 | |
| 関 西 大 学 | 教 育 開 発 支 援 セ ン タ ー | セ ン タ ー 長 | 田 中 俊 也 | 幹事校 |
| 〃 | 学事局授業支援 グ ル ー プ | 課 員 | 竹 中 喜 一 | |
| 関 西 学 院 大 学 | 高 等 教 育 推 進 セ ン タ ー | セ ン タ ー 副 長 | 中 野 康 人 | 幹事校 |
| 〃 | 教務機構事務部 | 課 長 | 富 田 則 幸 | |
| 〃 | 教務機構事務部 | | 中 村 洋 右 | |
| 龍 谷 大 学 ・ 龍谷大学短期大学部 | 大 学 教 育 開 発 セ ン タ ー | セ ン タ ー 長 | 長 谷 川 岳 史 | 幹事校 |
| 〃 | 教 学 企 画 部 | 課 長 | 井 上 弓 子 | |
| 和 歌 山 大 学 | 経 済 学 部 | 授業評価・改善推進部 会 長 / 副 学 部 長 教 授 | 藤 永 博 | 幹事校 |
| 京 都 大 学 | 高等教育研究開発推 進 セ ン タ ー | セ ン タ ー 長 ・ 教 授 | 飯 吉 透 | 代表幹事校 |
| 〃 | 〃 | 教 授 | 松 下 佳 代 | |
| 〃 | 〃 | 教 授 | 溝 上 慎 一 | |
| 〃 | 〃 | 准 教 授 | 田 口 真 奈 | |
| 〃 | 〃 | 准 教 授 | 酒 井 博 之 | |
| 〃 | 〃 | 特 定 助 教 | 田 中 一 孝 | |

関西地区FD連絡協議会幹事会（第11回）出席者名簿

平成27年1月26日

| 幹事校名 | 幹事会出席者 | | | 備考 |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------|-------|
| | 部署名 | 役職 | 氏名 | |
| 大 阪 大 学 | 全学教育推進機構 | 企 画 開 発 部 長 | 竹 村 治 雄 | 常任幹事校 |
| 大 阪 市 立 大 学 | 大 学 教 育 研 究 セ ン タ ー | 准 教 授 | 西 垣 順 子 | 常任幹事校 |
| 神 戸 大 学 | 大学教育推進機構 | 教 授 | 山 内 乾 史 | 常任幹事校 |
| 同 志 社 大 学 | 学 習 支 援 ・ 教 育 開 発 セ ン タ ー | 事 務 長 | 井 上 真 琴 | 常任幹事校 |
| 立 命 館 大 学 | 教育開発推進機構 | 教 育 開 発 支 援 セ ン タ ー 長 | 沖 裕 貴 | 常任幹事校 |
| 大 阪 府 立 大 学 | 高等教育推進機構 | 学長補佐/高等教育推進機構 副 機 構 長 教 授 | 高 橋 哲 也 | 幹事校 |
| 〃 | 高等教育推進機構 | 准 教 授 | 深 野 政 之 | |
| 関 西 大 学 | 学 事 局 授 業 支 援 グ ル ー プ | 課 員 | 竹 中 喜 一 | 幹事校 |
| 関 西 学 院 大 学 | 教 務 機 構 事 務 部 | 課 長 | 富 田 則 幸 | 幹事校 |
| 〃 | 教 務 機 構 事 務 部 | | 中 村 洋 右 | |
| 神 戸 常 盤 大 学 ・ 神戸常盤大学短期大学部 | 保健科学部看護学科 | 准 教 授 | 黒 野 利 佐 子 | 幹事校 |
| 龍 谷 大 学 ・ 龍谷大学短期大学部 | 大 学 教 育 開 発 セ ン タ ー | セ ン タ ー 長 | 長 谷 川 岳 史 | 幹事校 |
| 和 歌 山 大 学 | 経 済 学 部 | 授業評価・改善推進部会長/ 副 学 部 長 教 授 | 藤 永 博 | 幹事校 |
| 京 都 大 学 | 高等教育研究開発推進 セ ン タ ー | セ ン タ ー 長 ・ 教 授 | 飯 吉 透 | 代表幹事校 |
| 〃 | 〃 | 教 授 | 松 下 佳 代 | |
| 〃 | 〃 | 教 授 | 溝 上 慎 一 | |
| 〃 | 〃 | 准 教 授 | 田 口 真 奈 | |
| 〃 | 〃 | 准 教 授 | 酒 井 博 之 | |
| 〃 | 〃 | 特 定 助 教 | 田 中 一 孝 | |

III-2. FD 活動報告会 2014

2014年5月17日（土）、関西地区FD連絡協議会第7回総会において、会員校で組織的に取り組まれているFDや教育改善の活動についてポスター発表の形式で情報交換をおこなう「FD活動報告会2014」が開催された（写真1、資料1）。本報告会は、今年度で5度目の開催であった。初年度は幹事校を中心に17件、その後、12件、17件、28件の発表であったが、今年度は22の会員校から25件の発表があった。これまでと同様、約1時間弱の短い時間帯であったが、報告会の開始から終了まで活発な意見交換がおこなわれた。

なお、前年度から、会員校が3年に一度は発表をおこなうというローテーション制を導入している。



写真1 「FD活動報告会2014」の会場の様子

繰り返しになるが、本報告会のねらいについて確認しておきたい（図1、資料2）。まず、各会員校で取り組まれている組織的なFDや教育改善の活動の情報交換の場を本協議会の公的活動として位置づけ、ポスターセッションの形式で実施することである。会員校の活動成果に関する定期的な共有の場を設けることで、発表校にとっては組織的取り組みをアピールするとともに、会員校から意見や助言を得る機会ともなる。また、総会の参加校にとっては、他の会員校の取り組みを担当者から直接説明を受け、そのノウハウを自身の組織の活動に活かす機会である。このように、FDに関する互助組織としての本協議会の特徴を反映させた活動といえる。

次に、各ポスター発表に対し、会員校がコメントを付けるピアレビューの実施である。ポス

ターの作成者には、あらかじめポスター上に「取り組みの視点」「コメントが欲しい点」を記述するよう依頼し、他者がポスターを読む際の視点を与える工夫をしている。このピアレビューには、ポスターの原稿を総会までに読んで貰い、事前にコメントを作成し提出してもらう「指定校用コメントシート」と、総会の参加者が報告会の場で自由にコメントを付ける「一般用コメントシート」を準備している。前者は、発表校につき2校の指定校にコメントを依頼し、総会に出席不可能である場合などを除き多くの会員校からの同意があった。今年度はすべての発表に対して会員校からのコメントが提出された。このようなコメントを会員校間で共有することで、FD に関して抱える課題や評価の視点を相互に強化することが可能と思われる。このピアレビューの実施は、本協議会の大きな特徴であり、他に例を見ない。

ポスターの原稿は、MOST を利用し、KEEP Toolkit を使ったスナップショットとしてオンライン上で作成することが推奨されている。従来と同様、多くの発表校が MOST を利用して原稿を作成し、これ以外の発表原稿と合わせて一覧にしたものを、協議会の成果としてウェブ上で対外的に発信した（図2）。下記の URL から各ポスターにアクセスできる。なお、ピアレビューのコメントについては、会員校の共有財産として PDF ファイルおよび会員校の教職員のみがアクセスできるオンラインコミュニティ内で公開されており、初回のコメントから蓄積されている¹。これを継続することで、会員校のFD の取り組みを網羅することを目標としている。また、協議会全体の成果としてウェブ上で発信することは、社会に対する説明責任を示すことにもなるだろう。

<https://most-keep.jp/keep25/toolkit/html/gallery.php?id=822562082505377>

このように、本報告会は多重の活動が盛り込まれ、その効果ができるだけ大きなものとなるよう意図されている。本報告会の取り組みは、会員校相互の貢献なくしては実現不可能であり、今後も本活動に対して協力を頂ければ幸いである。

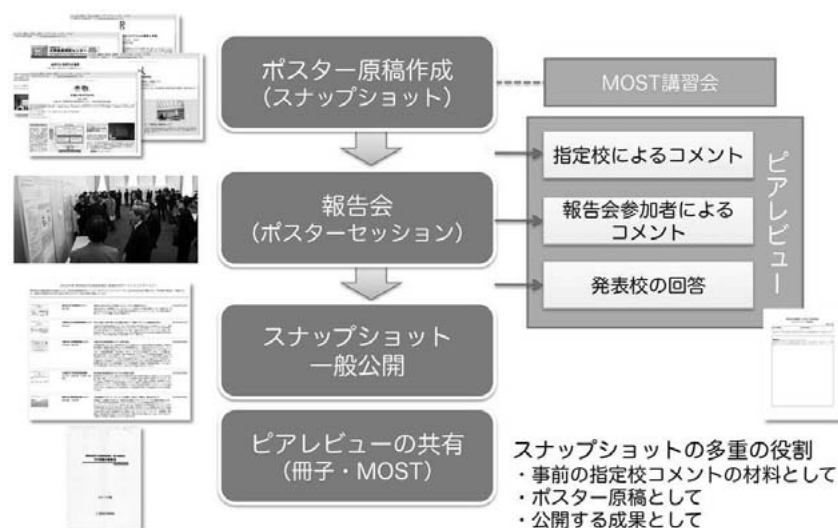


図1 「FD 活動報告会」のデザイン



図2 スナップショットギャラリー（左）とピアレビュー報告書（PDF版）（右）

総会時に回収したアンケートの結果から、「FD 活動報告会」に関する箇所を抜粋して、その結果を報告する。「ポスターセッションの満足度」について尋ねたが、有効回答数 54 件のうち、「5 非常に満足している」15 件、「4 まあまあ満足している」31 件、「3 どちらともいえない」8 件（「2 あまり満足していない」「1 全く満足していない」は共に 0 件）と、5 件法の評定平均値が 4.13 となった（2013 年度 4.38、2012 年度：4.29、2011 年度：4.32、2010 年度：4.26）。自由記述からは、「多くの貴重な情報を得ることができました」「「目からうろこ」の新発想で大変興味深く、発達の転換のヒントを得た」「自分の学校と似たとりくみをしている大学があり、参考になった」「ピアレビューについての発表者からのコメントが紙上討論の形であったら良いと思います」「ラーニングコモンズや初年次教育に関する発表がたいへん参考になった」「もう少し発表数が多くても面白いとおもいます」といった感想が得られた。

次年度以降も「FD 活動報告会」は継続的に開催するが、引き続き、アンケート結果を元に取り組み自体の改善もおこなうとともに、発表校数の増加やピアレビューのより一層の活性化に向けて検討をおこないたい。

注

- 1) ポスター原稿やピアレビューコメントの公開と共有は、広報WGの業務としておこなった。

（酒井 博之）

関西地区 FD 連絡協議会 第 7 回総会

日 時：2014 年 5 月 17 日（土）13:00～

場 所：京都大学百周年時計台記念館

プログラム

13:00 総会（百周年記念ホール）

13:10 基調講演「FD の現状と課題について」

里見 朋香（文部科学省高等教育局大学振興課長）

14:00 議事

16:40 FD 分科会

分科会 1：FD 担当者のための Q and A セミナーー今さら聞けない FD の基礎基本ー

講師：佐藤 浩章（大阪大学）

分科会 2：学びの意欲が持てない現代大学生の自己像とは？

ー彼らをどう理解し支援するのかー

講師：谷 美奈（帝塚山大学）・松下 佳代（京都大学）

分科会 3：アクティブラーニングの新しい展開・反転授業

講師：森 朋子（関西大学）・溝上 慎一（京都大学）

16:40 ポスターセッション「FD 活動報告会 2014」（於：国際交流ホール）

17:30 閉会挨拶

FD 活動報告会 2014 関連スケジュール

2014 年

- 1 月中旬 ニュースレター発行（発表校の参加受付開始）
- 3 月 14 日（金） 参加受付締切り（第一次：MOST 講習会参加希望者のみ）
- 3 月 14 日（金） MOST 講習会（於：京都大学）
- 3 月 20 日（金） 参加受付締切り（最終）
- 4 月 26 日（金） 幹事校会議（ポスター発表校（経過）、ピアレビュー担当校の承認）
- 4 月 26 日（金） 発表原稿提出締め切り
- 5 月 7 日（水）～ ピアレビュー担当校に発表原稿、コメントシート記入要領を通知
- 5 月 17 日（土） 総会「FD 活動報告会 2014」
- 5 月 30 日（金） 発表者からの回答コメント締切、原稿の修正期限
- 6 月中旬 MOST 上での共有化、関西 FD の HP からリンク
- 7 月初旬 コメント集（PDF ファイル）を会員校に配布

III-3. FD 共同実施ワーキンググループ

1. 活動の概要

FD 共同実施ワーキンググループは、初任者研修共同実施の企画立案をはじめ、会員校が共同で実施する活動を行うものである。大阪大学（常任幹事校）、関西学院大学（幹事校）、京都大学（代表幹事校）を FD 共同実施部とし、「初任教員向けプログラム」（通称：カンジュニ）を実施している。このプログラムは、関西地区 FD 連絡協議会加盟校で実施されている研修会のうち「大学の所属に関係なく、大学初任教員であれば参加して効果が見込まれる」ものを公開してもらい、それを関西 FD 認定プログラムとするものである。関西 FD では、研修マトリックスを作成、周知することによって、各大学の研修会を相互利用できる機会を提供している。

今年度で 4 年を終えたが、過去 3 年間のプログラム提供数が 6～10 程度であったのに対して、今年度は 32 と急増した。提供校数は 7 校であり、昨年度の 5 校から大きな変化があったわけではなく、大阪大学の提供プログラムの増加に因るところが大きい。

なお、プログラムは年度当初にすべて決定されるわけではなく、随時、カンジュニへの公開を受け付けている。カンジュニプログラムとして認定されたものについては、通し番号付きの参加証を事務局から発行している。そのための流れは以下に示した通りである。

【参加証発行までの流れ】

1. 加盟大学から研修公開依頼
2. 共同実施 WG で検討
3. （共同実施 WG 了承の場合）、FD 共同実施 WG から幹事校会議における検討依頼
4. （幹事会了承の場合）会員校周知、HP へ記載
5. 関西地区 FD 連絡協議会会員校会員が各プログラム実施担当者に参加申し込み
6. プログラム実施担当者による受付後、関西地区 FD 連絡協議会事務局に参加者名簿を送付
7. 開催日前日までに、関西 FD 事務局から各参加者の参加証をプログラム実施担当者に送付
8. プログラム実施担当者は、研修当日に参加者の出欠を確認、出席者に参加証を配布

プログラムは公開が決定した段階で、下記の関西地区 FD 連絡協議会の HP に情報を掲載している。また、会員が自由に登録できる関西地区 FD 連絡協議会のメーリングリストを通じても情報提供を行っている。

http://www.kansai-fd.org/activities/training/cat/program_for_junior_faculty.html

共同実施 WG では、初任教員向けプログラムとして各大学で実施される研修の公開をよびかけ、また、カンジュニプログラムとして適切であるかどうかの判断を行っている。さらに、プログラム終了後に、参加者にアンケートをメールにて送付、プログラムの評価結果を蓄積している。

2. 2014 年度の活動報告

前述したように、2014 年度の初任教員向けプログラムは 32 回であり、7 校が自校の研修会を公開した。表 1 は、2014 年 12 月実施までに実施された、27 のプログラムの講座名、開催大学、開催日時ならびに、参加者数などについてまとめたものである。

昨年度 102 名であったカンジュニ参加者数（会場校以外の参加者数）は、193 名にまで増えている。

表 1 初任教員向けプログラム（カンジュニ）の実施概要

| | 講座名 | 開催大学 | 開催日時 | 参加者数 | 参加者内訳 | | アンケート回答者（名） | 無回答者（名） | 備考 |
|----|---|--------|----------------|-------|--------|----------|-------------|---------|----------------|
| | | | | 合計（名） | 会場校（名） | 会場校以外（名） | | | |
| 1 | 「授業の基本」ワークショップ | 羽衣大学 | 2014. 3. 26 | 32 | 29 | 3 | 1 | 2 | |
| 2 | 授業の基本研修会-授業の基本と授業づくり- | 滋賀県立大学 | 2014. 4. 19 | 32 | 16 | 16 | 12 | 4 | |
| 3 | 「授業の基本」研修会 ー数式を扱う授業のためにー | 滋賀県立大学 | 2014. 5. 30 | - | - | 10 | 9 | 1 | |
| 4 | 自主性を育むプロジェクト学習（PBL）を授業に取り組む方法 | 大阪大学 | 2014. 6. 19 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | |
| 5 | 研究倫理教育をどう授業・指導のなかに取り入れるか | 大阪大学 | 2014. 6. 19 | 7 | 4 | 1 | 1 | 0 | 会員校以外からの出席 2 名 |
| 6 | 「授業の基本」研修会ー視聴覚教材を用いる授業のためにー | 滋賀県立大学 | 2014. 6. 27 | - | - | 16 | 12 | 4 | |
| 7 | アクティブラーニングを促す教育技法 | 大阪大学 | 2014. 7. 2 | 6 | 3 | 3 | 3 | 0 | |
| 8 | ループリック評価入門 ～時短・ブレない・公平な評価方法～ | 大阪大学 | 2014. 7. 2 | 14 | 3 | 9 | 7 | 2 | 会員校以外からの出席 2 名 |
| 9 | 自主性を育むプロジェクト学習（PBL）を授業に取り組む方法 | 大阪大学 | 2014. 7. 3 | 7 | 0 | 6 | 1 | 5 | 会員校以外からの出席 1 名 |
| 10 | 第 3 回 授業デザインワークショップ「よりよい授業のデザインと実践を身につける」 | 大阪大学 | 2014. 7. 12～13 | 5 | 3 | 3 | 1 | 2 | 会員校以外からの出席 5 名 |
| 11 | ワークショップをいかに授業に取り入れるか | 大阪大学 | 2014. 7. 17 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | |
| 12 | 「授業の基本」研修会ー授業に学生を「参加」させるにはー | 滋賀県立大学 | 2014. 7. 25 | - | - | 11 | 5 | 6 | |
| 13 | 「授業の基本」＋「成績評価」ワークショップ | 神戸薬科大学 | 2014. 8. 7～8 | - | - | 17 | 11 | 6 | |

| | | | | | | | | | |
|----|---|--------|---------------|-----|-----|-----|-----|----|--------------|
| 14 | 「授業の基本」研修会 ―成績評価の方法:ルーブリックの作り方― | 滋賀県立大学 | 2014. 8. 11 | - | - | 18 | 8 | 10 | |
| 15 | 第4回 授業デザインワークショップ「よりよい授業のデザインと実践を身につける」 | 大阪大学 | 2014. 9. 1～3 | 16 | 4 | 8 | 7 | 1 | 会員校以外からの出席4名 |
| 16 | 授業の基本ワークショップ「理系のためのアクティブラーニング」 | 大阪工業大学 | 2014. 9. 5 | 33 | 31 | 2 | 2 | 0 | |
| 17 | 大学教員のための「講義方法のブラッシュアップ」Bワークショップ | 関西学院大学 | 2014. 9. 8～9 | - | - | 13 | 6 | 7 | |
| 18 | 学生に届く声―授業におけるコミュニケーションスキルのためのワークショップ― | 京都大学 | 2014. 9. 25 | - | - | 10 | 4 | 6 | |
| 19 | 科目の中でのアカデミックライティング指導法 | 大阪大学 | 2014. 10. 28 | 6 | 2 | 4 | 0 | 4 | |
| 20 | 大人教講義法をもっと魅力的にする30の技法 | 大阪大学 | 2014. 11. 6 | - | - | 8 | 4 | 4 | 会員校以外からの出席1名 |
| 21 | アクティブ・ラーニングを促す教育技法 | 大阪大学 | 2014. 11. 6 | - | - | 9 | 5 | 4 | |
| 22 | ワークショップをいかに授業に取り入れるか | 大阪大学 | 2014. 11. 13 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | |
| 23 | 自学自習を促すシラバス作成法 | 大阪大学 | 2014. 11. 27 | 6 | 2 | 4 | 2 | 2 | |
| 24 | ルーブリック評価入門 ～時短・ブレない・公平な評価方法～ | 大阪大学 | 2014. 11. 27 | 11 | 3 | 8 | 4 | 4 | |
| 25 | 学生主体の学びと深い理解を引き起こすジグソー学習法の原理と実際 | 神戸薬科大学 | 2014. 11. 28 | 35 | 7 | 10 | 4 | 6 | |
| 26 | オープンエデュケーションによる教育改善への取り組み | 大阪大学 | 2014. 12. 15. | 3 | 2 | 1 | 1 | 0 | |
| 27 | 授業を分析的に振り返るための教育・学習理論 | 大阪大学 | 2014. 12. 22 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | |
| | 計 | | | 220 | 113 | 193 | 112 | 81 | |

なお、今年度予定されている残りの6プログラムは以下の通りである。

| | | | |
|----|------------------------------|------|----------------|
| 28 | 自学自習を促すシラバス作成法 | 大阪大学 | 2015. 1. 8 |
| 29 | ルーブリック評価入門 ～時短・ブレない・公平な評価方法～ | 大阪大学 | 2015. 1. 8 |
| 30 | 目的に応じたグループ学習を授業に導入する方法 | 大阪大学 | 2015. 2. 4 |
| 31 | コースデザインワークショップ（宿泊型） | 大阪大学 | 2015. 2. 12～13 |
| 32 | 主体的な学びに向けた、学生のリフレクションを促す方法 | 大阪大学 | 2015. 2. 18 |
| 33 | 若手教員のためのキャリアプランニングカフェ | 大阪大学 | 2015. 2. 20 |

3. 初任教員向けプログラムに対する参加者の評価

前述したように、FD 共同実施 WG では、初任教員向けプログラムに参加した、関西地区 FD 連絡協議会加盟校の教職員に対して、事後アンケートを実施している。現時点で回答を得ることのできている 27 回の研修会の参加者 193 名すべてにアンケートをメールで送付したところ、合計 112 名からの回答を得た。以下に、アンケートの回答を示す（欠損値あり）。

3-1. 参加者の職階

参加者の職階を下記に示した。（ ）内は、昨年度の人数である。全般的に、教員の参加が増えたことが見て取れる。

| | |
|--------|--------------|
| 教授 | 28 名（← 16 名） |
| 准教授 | 24 名（← 13 名） |
| 助教 | 17 名（← 10 名） |
| 講師 | 31 名（← 25 名） |
| 助手 | 4 名（← 1 名） |
| 研究員 | 1 名（← 1 名） |
| 事務職員 | 6 名（← 3 名） |
| 教育技術主事 | 1 名 |

3-2. 参加者の立場

以下は、「あなたはどのような立場で本研修会に参加しましたか。」という設問に対する回答の結果である（複数回答者あり）。（ ）内は昨年度アンケート結果の数値であるが、「新任教員ではないが研修会に興味を持って参加した」という回答の増加分が最も多い。

1. 新任教員として：35 名（← 32 名）
2. 学内の FD 担当委員として：15 名（← 11 名）
3. 新任教員ではないが研修会に関心を持って：59 名（← 32 名）
4. 事務職員として：6 名（← 2 名）

3-3. 研修会をどのようにして知ったか

「あなたはこの研修会のことをどのようにして知りましたか。」という設問に対する回答は以下の通りであった。（ ）内は昨年度アンケート結果の数値である。関西 FD の HP あるいはメーリングリストが増加しており、本プログラムが浸透してきたことがうかがえる。また、FD 業務を担当する教職員からという回答が多いことは、関西地区 FD 連絡協議会の担当窓口となる教職員が、学内に情報を流す仕組みができつつあることが示唆される。なお、今年度は、学内向けポスターは作成していないが、ポスターという回答も一定程度あった。

1. 学内のビラ・ポスターから：8 名（← 10 名）
2. 関西 FD の HP から：19 名（← 3 名）
3. FD 業務を担当する教職員から：40 名（← 11 名）
4. その他の教職員から：8 名（← 31 名）
5. 関西 FD からの E メールによる案内で：35 名（← 9 名）

3-4. 参加のきっかけ

「あなたがこの研修会に参加したきっかけは何ですか。」という設問に対する回答は以下の通りであった。()内は昨年度アンケート結果の数値である。昨年度から大きく増えた項目としては、「自分の教育能力を高めたかったから」「実際に教育を行う上で悩んだり困ったりしたことがあるから」「研修会の内容そのものに興味をもったから」といった理由をあげることができる。

1. 大学から参加するよう指示があったから：16名 (← 14名)
2. FD担当委員の業務として参加する必要があるから：11名 (← 7名)
3. 自分の教育能力を高めたかったから：81名 (← 50名)
4. 大学教育を考える機会が欲しかったから：25名 (← 20名)
5. 実際に教育を行う上で悩んだり困ったりしたことがあるから：50名 (← 34名)
6. 研修会の内容そのものに興味をもったから：69名 (← 41名)
7. 他大学の研修会に参加してみたかったから：15名 (← 8名)

3-5. 制度についての評価

「今回のような他大学の研修会を受講できる制度について、ご意見・ご感想があればお書きください。」という設問に対しては以下のような記述が寄せられた。制度を評価し、継続や広がりを目指す声が多く見られた。受講機会の多様性の確保、研修内容の多様性の確保に加えて、他大学とのネットワーキングや、他大学を訪問する機会になることそのものを評価する声も聞かれた。具体的なメリットや希望が述べられているもののみ、下記に抜粋を示した。

| 記述内容 | 回答者 所属 | 回答者 職階 | 回答者 の教育 歴 (年) |
|--|-----------|-----------|---------------------|
| 【受講機会の多様性が確保される】 | | | |
| 受講の機会が増えるので、勤務との関係上とてもありがたいです。 | 私立 | 助教 | 1 |
| 他大学の先生方との交流にもなる上、自分の日程や興味に合うものを選んで良い。 | 国立 | 研究員 | 0 |
| 近隣の大学で夏休み期間ということだったので参加しやすい。 | 私立 | 助手 | 5 |
| 本学での研修が少ないので、とても役に立っています。大変助かります。今後も参加させていただきます。 よろしく願い申し上げます。 | 私立 | 講師 | 17 |
| 大変良いことだと思う。競争の激しい海外では能動的に自分が行動しなければならず、それに対する評価が常に厳しくフィードバックされる。それに対して日本では余計なことはするなという仲間圧力を受け、常に受け身を期待される。しかし、できるならより良くしたい、という思いがある。チャンスが有るなら学生のためにも努力したい。行動したい教員にとって機会を与えられるのは大変有り難い。 | 私立 | 教授 | 28 |
| 勤務校では年に2回程度しか研修会は実施されないの、他大学の研修会を受講させていただけるととてもありがたいです。 | 私立 | 准教授 | 12 |
| 学内でFD研修が実施されることは少ないので、他大学の研修会を受講できるのは大変ありがたいです。他大学の取り組みを体験できる点で、視野も広がります。 | 私立 | 准教授 | 11 |
| 面白そうな研修があっても、なかなか日時の都合がつかないことも多いので、いろいろなチャンスがあるという面ではいいと思います。ただ、質問5にも書いたように、ワークが伴うものは不適かもかもしれません。 | 私立 | 教授 | 17 |

| | | | | |
|--|----|-------|----|--|
| 【研修内容の多様性が確保される】 | | | | |
| 興味がある内容について、他大学でも受講できる制度はよいと思います。 | 私立 | 教授 | 35 | |
| 小規模の大学では、学内でこのような研修会を開催するのは難しいので、今回のような制度はとてめありがたいと思う。ぜひ今後も参加させていただきたい。 | 私立 | 講師 | 12 | |
| 他大学の教育方法など学ぶ機会があり、有意義な機会だと思います。 | 私立 | 嘱託講師 | 4 | |
| 学内の研修に限定すると、年間で一つのテーマにしか遭遇できないこともあり、そのテーマが自身の関心と合致するとは限らないが、他大学の研修も広く受けることができる制度があることで、数の面で多様なテーマが選択肢に入るためよいと思う。 | 国立 | 講師 | 5 | |
| 選択肢が広がるので、ぜひ続けてほしい。 | 私立 | 講師 | 1 | |
| 本学は単科大学で、独自（本学の教員を講師として）でFD研修を行うには限界があり、他大学の研修会を受講できるのは大変参考になる。今回のような具体的なテーマの研修会の受講機会があれば今後も参加したい。 | 私立 | 助教 | 26 | |
| とてもよいと思います。小さな大学では、いろいろな研修会を準備することができないので。 | 私立 | 講師 | 10 | |
| 他大学の研修を受講できる制度は大変ありがたい。私学の小さい大学であれば、やはり、独自で研修会を進めていくことも難しいので、このような制度があるのは大変ありがたい。 | 私立 | 助教 | 8 | |
| 大学によって内容や取り組み方に差があるように思いますので、この制度はありがたいです。 | 私立 | 助教 | 3 | |
| できることなら、大学に着任する前に受けておきたかった。連携していろいろなところで受講できることは素晴らしいことです。これからも大変だと思いますが、続けていただければ幸いです。 | 私立 | 講師 | 12 | |
| 【他大学との交流に価値がある】 | | | | |
| 他大学の先生方とも短い時間ですが、交流を持つことができるので、大変いい刺激になります。 | - | - | - | |
| 他大学、他分野の先生方とお話できる機会は多くないので、大変ありがたいです。 | 私立 | 講師 | 6 | |
| 自分の専門分野以外の先生方と研修する機会が少なく、良い刺激をいただけたと思っています。 | 私立 | 教授 | 20 | |
| 様々なバックグラウンドの方と会えるので、有効だと思います。 | 私立 | 教授 | 15 | |
| 他大学の教員と意見交換する事ができて、とても良い経験になった。 | 私立 | 講師 | 1 | |
| 学外のネットワークを築くうえでも効果的だった。 | 公立 | 特任准教授 | 2 | |
| とてもありがたいです。多くの教員が同じような悩みに直面しているはずで、それを各校でそれぞれに取り組むより、ともに学ぶことができれば効率もいいし刺激もあると思います。 | 私立 | 教授 | 16 | |
| 地理的制約はありますが、視点の違いから気づかされる点もあり、メリットはあると思います。 | 私立 | 准教授 | 7 | |
| 異なる学部（専門）の教員の方の研修会は、普段とは異なり、新たな視点で考えさせられる機会となり、刺激となるためよい制度と思います。 | 私立 | 准教授 | 24 | |
| とても良い制度であると思う。自分の大学だけでは、ややもすると視野が狭くなりがちであるが、様々な大学・学科の実情が垣間見られ、視野が広がる。他大学と比較しながら、共通する課題と個別的な課題を考える機会が得られるので、良い経験になった。 | 私立 | 教授 | 30 | |

| | | | |
|--|----|------|-----|
| 他大学の取組みを知るだけでなく、他大学の方とコミュニケーションをとることができる点は非常に大きなメリットがあり、有益に感じる。 | 私立 | 事務職員 | 0 |
| 他大学の先生方との交流にも繋がるので、大変良い制度だと思います。 | 私立 | 講師 | 6.5 |
| 以下の理由で良いことだと思います。 | | | |
| ○会場校にお勤めの先生（どうしても会場校の先生の参加が多くなると思いますので）のお話から学風がうかがえて、自校の在り方を考える参考になります。 | | | |
| ○会場校の教員支援の様子がうかがえて、自校の教員支援を考える参考になります。 | | | |
| ○会場校の学生の様子を見ることができ、学生指導の参考にあります。 | 私立 | 教授 | 30 |
| ○会場校の環境を見ることができ、自校の環境整備の参考にあります。 | | | |
| （以前、大阪大学前総長のご本で学生のためにフリースペースを多く設置したと読みました。実際に行ってみて学生が多くのフリースペースで集いあっているのを見て、大変参考になりました。） | | | |
| 他大学の先生に授業の状況等をうかがうことができ、大変有意義であると思います。 | 私立 | 教授 | 0 |
| 他大学の先生方と知り合う機会になり、大学事情や専門性の異なるところでの意見交流に意義深いものを感じました。 | 国立 | 講師 | - |
| とてもいいと思います。他大学の先生との交流であったり、異なる分野（教科）の授業内容や授業方法を見させていただくことができとても参考になります。 | 公立 | 准教授 | 10 |
| 他大学の様子も分かり、とても良いと思う。 | 私立 | 講師 | 37 |
| 学外以外の先生との交流は大変貴重な情報を交換できる。 | 私立 | 講師 | 2 |
| このような研修会に参加できる制度は非常に良い。他の先生との交流も深められたことは良かった。 | 私立 | 講師 | 7 |
| 他大学の状況を知ることによって自校の問題点がわかるので、今後、機会があれば、大いに受講したいと考えています。 | 私立 | 教授 | 36 |
| 大学の教員はお互いに講義を見せ合うことは、ごく限られているので他大学でこのような研修会を受講できるのは大変参考になります。 | 私立 | 助教 | 30 |
| 所属大学の教員以外の方々と研究ではなく教育について話す機会は少ないため、とても有意義だと思います。 | 私立 | 助教 | 2 |
| 視野が広がりますので有りがたいと感じています。 | 私立 | 講師 | 11 |
| 他大学の教職員の方と交流できる点が良い。 | 私立 | 教授 | 20 |
| 他大学との教員と交流がもつことができ、良かったです。 | 私立 | 助教 | 2 |
| 学内の研修会に行ったことがないので、比較できませんが、他大学に行く方が、時間的にも労力がかかりますが、緊張感もありますし、良かったと思います。また、他大学の先生方と話をすることで、自分の大学や自分の授業を客観的に見ることができると思います。 | 私立 | 助教 | 10 |
| 理系、文系などさまざまな先生方がおられたことが大変良かったです。 | | | |
| 今回のワークショップでは他大学の方々と一緒に授業作りとルーブリック作りを体験できて、ことのほか有意義な機会となりました。今後とも是非このような制度を継続してください。 | 私立 | 教授 | 18 |
| 他大学の教員との交流やグループ演習は、お互いに学ぶこともありよかった。 | 私立 | 助手 | 5 |
| 研修会を行っていること自体に感心しました。 | 私立 | 准教授 | 0.5 |
| 非常によいと思います。他大学の状況も知る機会にもなり、参考になります。 | 私立 | 講師 | 0 |

【移動時間の確保が問題】

| | | | |
|--|----|-----|-----|
| 交通手段が限られるとちょっと参加しづらいので、可能ならば都市部で行って頂けるとより参加できます。 | 私立 | 講師 | 5 |
| 非常に良いことだと思いますが、移動に時間を取られるのがネックだと思います。 | 国立 | 講師 | 0.5 |
| アクセスの良い大学であれば参加したい。特に最寄り駅からのアクセス。 | 私立 | 講師 | 1.5 |
| すごくよいと思います。ただ、もう少しみんなが行きやすい場所で開催してほしい。他の先生をさそうにも便利な場所じゃないと誘いにくい。 | 私立 | 講師 | 6 |
| ぜひ続けてほしいですが、できれば会場をアクセスの良い場所にしてほしいです。 | 私立 | 講師 | 1 |
| 他の大学の先生のお話なども聞けるので貴重な機会と思いますが、全近畿で実施すると会場が遠方すぎる気がします。 | 私立 | 教授 | - |
| 以下、個人的な感想です。大阪中心部等の交通の利便性の良い場所での開催があるとありがたいです。また、丸1日の長時間の研修ではなく、半日の開催があると、参加するハードルが低くなります。長時間の開催となると参加されたみなさんは、午後2時以降は、集中力が切れてしまった方が多いように思いました。（途中で帰ったり、中座していなくなる方もいました）授業を受ける学生の気持ちもわかった研修会でした。 | 私立 | 准教授 | 17 |

【もっと PR が必要】

| | | | |
|---|----|----|----|
| 今まで FD 研修会の存在自体を知らなかったの、もっと広報に力を入れた方がよいと思う。私の周りでは、授業の基本の基本を知りたがっている教員がたくさん存在している。 | 私立 | 助教 | 1 |
| 大変良いと思う。もっと広く、PR すべきと感じた。 | 公立 | 教授 | 13 |

【多様な内容の開催を希望】

| | | | |
|---|----|------|---|
| ジャンルに縛られず今後も継続して欲しい。 | 私立 | 事務職員 | 0 |
| インターネット画像や、文献を授業で使用する場合について、著作権を侵害しないようにするにはどのようなことを注意すればよいかなど、今後研修会であれば参加したいと思っています。 | 私立 | 助教 | 5 |

【制度への希望・要望】

| | | | |
|--|----|--------|----|
| 物理的移動が大変なので、こういう研修会もオンラインで見れると良いなと思いました。 | 私立 | 教育技術主事 | 10 |
| 今後も他大学の研修会に積極的に参加したいと考えています。また大学を超えた研修会や実際の教育活動について企画・協議できる場があれば参加してみたいと感じています。 | 私立 | 講師 | 9 |
| 他大学の研修会は、京都大のあさがおのメーリングリストで回ってきくことも多く、関西 FD 連絡協議会としての独自性はよくわかりませんが、いいシステムかと思います。 | 私立 | 准教授 | 22 |
| 授業をどのように改善していけばよいのか、という示唆を得られる研修会が、今後いろいろな大学で行われることは、非常に興味深く、楽しみです。 | 私立 | 助教 | 12 |
| 大学以外で働く人も、自由に参加できるシステムになればいいな、と思いました。 | | | |
| 今回は学内の FD 委員であったことと、内容が興味あるものであり、参加するための時間がかかることができたので参加させていただいた。このような制度があることはとても良いことであるが、参加するための時間が都合よく取れるかが問題かもしれない。 | 私立 | 准教授 | 30 |

4. 終わりに

制度が浸透するにつれ、参加者の声が多様に聞かれるようになったが、職階や教育歴にかかわらず、こうした研修機会が多様に保障されていることの重要性が改めて感じられた。また、こうした研修は、交流そのものに価値が見いだされていることが（事後的にはであろうが）、改めて感想からうかがえた。オンラインによる教育機会が増えつつあるが、オンラインの特性である、タイミングのよい研修機会の提供と、対面による交流機会の確保のいずれもが重要であることが改めて確認された。

（田口 真奈）

III-4. FD 連携企画ワーキンググループ

1. 組織体制と活動内容

1-1. 組織体制

FD 連携企画部と FD 連携企画ワーキンググループ (WG) は、2014 年 12 月現在、以下の大学で構成されている (敬称略)。

◆ FD 連携企画部

- ・立命館大学 (安岡 高志、清水 郁子)・・・責任校
- ・関西大学 (田中 俊也、竹中 喜一)
- ・神戸常盤大学 (畑 吉節未) * 関西 FD パイロット校
- ・京都大学 (松下佳代)・・・事務局

◆ FD 連携企画 WG

上記の FD 連携企画部、および以下の 3 校を含む計 7 校

- ・藍野大学医療保健学部理学療法学科 (平山 朋子) * 関西 FD パイロット校
- ・大阪府立大学 (高橋 哲也) * 関西 FD パイロット校
- ・京都精華大学 (高橋 伸一)

1-2. 活動内容

(a) 目的と特色

FD 連携企画 WG の目的は、関西地区 FD 連絡協議会の会員校のうち、共通のテーマ (問題別、アプローチ別、組織別、ディシプリン別など) を抱える大学がグループを作り、協働で問題への対処に取り組むことである。そのため、一回限りのイベントを実施するのではなく、継続的に情報交換しながら、実質的な教育改善・FD を進めるための緩やかなコミュニティを形成することをめざしている。

FD 連携企画 WG には、ニーズの高いテーマに関連して自校の FD に取り組む会員校を「関西 FD パイロット校」として支援するという特色がある。2014 年 12 月現在、神戸常盤大学、藍野大学医療保健学部理学療法学科、大阪府立大学の 3 校が関西 FD パイロット校となっている。

(b) 活動計画

FD 連携企画 WG では、以下のようなプロセスで活動を展開している。

- ①特定のテーマについてシンポジウムを開催する。
- ②シンポジウム参加校・参加者を中心にグループを形成する。
- ③先進校の取組事例の学習や自校での試行を WG が支援する。
- ④関西 FD のホームページ・ニュースレターや大学教育研究フォーラム等で活動報告を行う。
- ⑤毎年、①～④を繰り返しながら、連携を拡大・進化させる。

2. 2014 年度の活動報告

2-1. 活動の経緯

本 WG では、2008 年度より 2013 年度まで毎年 1 回計 5 回にわたり、「思考し表現する学生を育てる」というテーマでシンポジウムやワークショップを開催してきた。関西 FD には多様な大学が参加しており、また、一つの大学にあっても多様な学部等が含まれている。したがって、FD の具体的な課題はそれぞれで異なってくることも少なくない。そこで設立以来、大学や専門分野の違いをこえて連携できるテーマとして選ばれたのが、このテーマであった。

本年は、12 月 20 日（土）に、関西地区 FD 連絡協議会主催 京都大学高等教育研究開発推進センター共催で、「思考し表現する学生を育てる VI—コピペではなく自分の頭で考えさせるためのライティング指導—」を、京都大学吉田南キャンパスにて開催した。

参加者は 50 名で北は岩手県、南は沖縄県から参加があった。関西地区 FD 連絡協議会会員校の参加者は 30 名であった。

13:30～13:40 オープニング（開会挨拶・趣旨説明）

13:40～15:00 講演とワーク（その 1）

「大学におけるパーソナル・ライティング導入の意義

—『文章表現者としての主体形成』をいかに促すか—」

谷 美奈（帝塚山大学全学教育開発センター准教授）

[休憩]

15:10～16:30 講演とワーク（その 2）

「『思考の型』をいかに学ばせるか—哲学系科目におけるライティング指導—」

坂本尚志（京都薬科大学一般教育分野講師）

16:30～16:55 ディスカッション

16:55～17:00 クロージング（閉会挨拶）

2-2. 第 6 回ワークショップの報告

以下に、関西地区 FD 連絡協議会ニュースレター No.13 掲載予定の報告（執筆：佐金武）を転載する。

関西地区 FD 連絡協議会主催ワークショップ

「思考し表現する学生を育てる VI—コピペではなく自分の頭で考えさせるためのライティング指導—」

FD 連携企画ワーキンググループ（WG）では、2014 年 12 月 20 日に京都大学にてワークショップ「思考し表現する学生を育てる VI—コピペではなく自分の頭で考えさせるためのライティング指導—」を開催いたしました。本 WG が 2008 年度から継続的に開催してきたワークショップの 6 度目にあたる今回は、学生に書くことを通じて主体形成を促すパーソナル・ライティング（第 1 部）と、バカロレア試験流の「思考の型」を教えるアカデミック・ライティング（第 2 部）の 2 本立てで構成されました。

■ 第1部 パーソナル・ライティング

まず講演に先立ち、松下佳代氏（京都大学）から開会の挨拶と本ワークショップの趣旨説明がなされました。続いて、安岡高志氏（立命館大学）からこれまでの経緯や成果について説明がありました。これを受けて第1部では谷美奈氏（帝塚山大学）より、大学におけるパーソナル・ライティング導入の意義に関してご講演いただきました。

谷氏は、レポートや卒業論文の作成を前提にテクニカルな文章指導が行われがちな大学教育の現状に対して、表現者としての主体の形成を促すパーソナル・ライティングを導入することの重要性を訴えられました。パーソナル・ライティングの教育理念は、書くこと（＝考えること）を通じた、内発的な学びや表現のきっかけを提供することです。谷氏が実践するパーソナル・ライティングの特徴として、(i) 文章ジャンルとしてのエッセーへの着目、(ii) 内面の掘り下げと自己の捉え返し、(iii) 内面的な感情や思い、記憶、経験の言語化、(iv) 粘り強い文章の推敲、(v) 他者に向けた作品づくりの5点が挙げられます。実際の文章作成のプロセスは、ワークシート作業、メモ作り、原稿の清書といった取り組みから成り、こうして書かれたエッセーは批評（合評）を通じて学生相互で吟味され、最終的には文集として作品化されます。いくつかの実践例の紹介に加えて、パーソナル・ライティングをめぐる海外の動向や、教育的効果の検証についても言及がありました。

概要説明の後、これまで作成された学生のサンプル・エッセーが3つ紹介され、参加者のみなさまにも実際にパーソナル・ライティングのワークに取り組んでいただきました。ワークシート作業によるネタ探し、準備体操としてのフリー・ライティング、試し書き（下書き）までの一連の流れがワークの内容でした。最後に谷氏は、現代の学生の「表現者としての主体の未形成」という問題を提起され、自己を起点としそれを捉え返すことにこそ、文章表現教育の現代的意義が見出されるのではないかと指摘されました。



■ 第2部 アカデミック・ライティング

第2部では坂本尚志氏（京都薬科大学）より、バカロレア試験流の「思考の型」を教えるアカデミック・ライティングに関してご講演いただきました。バカロレアとはフランスの大学入試資格試験のことであり、リセ（高等学校）において第2学年終了時にフランス語、第3学年終了時に残りの科目を受験することになっています。最終学年の1年間は哲学教育が行われ、哲学的主題について様々な主張を学びつつ、バカロレア試験の答案作成の練習が行われます。その目的は哲学の知識の習得というよりもむしろ、哲学を題材に議論の形式や組み立てを学び、社会生活において広く役立つ「思考の型」を身につけることにあります。

これを参考に坂本氏は、薬学部生のための哲学科目はどのようにあるべきかを検討され、バカロレア試験の小論文作成法をモデルとして、2回生向けの「人間学」を開講されています。

この講座の目的は、(i) 哲学を題材に自らの考えを論理的かつ明快に伝える力、(ii) 異なる意見や対立する意見について客観的に分析する力、その上で、(iii) 論理的な帰結としてどの意見が妥当であるかを述べる力、これら3つの能力を養うことにあります。実際の授業では、毎回1つの哲学的テーマを学び、小論文の作成法（①問題分析、②導入、展開そして結論からなる構成の検討、③構成案に基づく論文作成）をステップごとに説明されているそうです。

講演後のグループ・ワークでは参加者のみなさまに、「思考の型」を学ばせるという観点から、実際に授業デザインに取り組んでいただきました。インタビュー、実験・実習、ディスカッションなど個々の学問分野に求められるメソッドはそれぞれ異なりますが、それらを念頭に、調査法、科学的思考法、議論の方法などといった思考の型を習得するための興味深い授業デザインが紹介されました。



■ ディスカッション



講演後のディスカッションでは、具体的な授業法に踏み込んだ、活発な質疑応答がなされました。谷氏に対しては、(Q1) パーソナル・ライティングの採点法、(Q2) 効果の評価、(Q3) メンタルな問題を抱える学生への対応、(Q4) 書く力に加えて読む力を育成する方法について質問がありました。これに対して谷氏は、(A1) 平常点や出席点とともに、自己評価と他者評価を重視しつつ6段階で評価を行っていること、

(A2) 自分を見つめ直す契機となるパーソナル・ライティングは就職活動などにも有利に働く可能性があること、(A3) 授業においては書きたくないことを書く必要はないことを明言する必要がある一方、書くことがむしろカタルシスをもたらすこと、(A4) 書くことをメインにピア・リーディングを取り入れ、小説などプロの文章も読むように心がけていることを指摘されました。

また坂本氏に対しては、(Q1) 授業内容の分量、(Q2) ディスカッションが成立しない場合の対処、(Q3) ルーブリックの利用法について質問がありました。これに対して坂本氏は、(A1) 多くの学生にとって現行の授業デザインに分量の面での問題はほとんどないが、困難をおぼえる学生への対処が必要であること、(A2) ウェブアンケートなど学生の興味をひく教材を利用し、指示や発問の仕方にも工夫を試みていること、(A3) ルーブリックの利用は評価基準を明らかにする上で有益であるとともに、学生の自己評価にもつながることを指摘されました。

閉会にあたり安岡氏は、単に成績のためではなく将来自分の意見を伝えるために、今から書

く力を養う必要があることを学生にしっかり理解させることが重要であるとコメントされました。また松下氏は、対照的なライティングの授業法について、非常に学ぶところの多い有意義なワークショップだったとの感想を述べられました。事後のアンケートにおいても、パーソナル・ライティングとアカデミック・ライティングのそれぞれの特徴や、それらをどのように授業に取り入れるべきかを考える上で大変参考になったという参加者のみなさまの声が多く寄せられ、全体としてとても満足度の高いワークショップだったことがうかがわれます。

（以上、ニュースレター No.13 特集記事より）

今回のワークショップの企画意図は、①「大学生の生活綴方」的性格をもつパーソナル・ライティングとバカロレア試験流の「思考の型を学ばせる」アカデミック・ライティングという2つの対照的な実践を紹介する、②講演とワークを組み合わせで80分で、ライティング指導について体験しながら理解してもらう、ということであった。結果は大成功で、事後アンケートの有意義度も平均4.6と大変高かった。また、「スキルだけでなく自己認識を深めることが伴っていなければということを確認しました」「『私』確立への目ざめ、支援としてのWritingの必要性を痛感しました」、「自分のイケンを社会的次元にのせるために『思考の型』は不可欠と思いました」「型習得にまね→型を破り→型から離れるという過程があると聞きましたが、Writingにも通じるものがあると思います」といった感想が寄せられた。

2-3. まとめ

「思考し表現する学生を育てる」のシリーズは、2008年度から始めて、途中、活動成果をまとめるために2012年度に1回空白があった以外は、毎年継続して開催してきた。各年度のサブテーマと開催校は下記の通りである。第1回のみシンポジウムで、第2回からワークショップになった。

- ・2008年度 第1回「書くことをどう指導し、評価するか？」（立命館大学）
- ・2009年度 第2回「書くことをどう指導し、評価するか？Ⅱ」（関西大学）
- ・2010年度 第3回「書くことをどう指導し、評価するか？Ⅲ」（京都大学）
- ・2011年度 第4回「ライティング指導の方法」（立命館大学）
- ・2013年度 第5回「レポート・ライティングに関する授業設計を考える」（関西大学）
- ・2014年度 第6回「コピペではなく自分の頭で考えさせるためのライティング指導」

（京都大学）

本シリーズのシンポジウムやワークショップの中で紹介された実践例やそこから得られた知見を、関西地区FD連絡協議会・高等教育研究開発推進センター編『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』として、2013年3月にミネルヴァ書房より刊行された。多くの読者を得て、今年重刷された。WGの活動としては、一定の成果を出すことができたと考えている。

本シリーズは今回をもって終了する（来年度以降のテーマについては未定）。開催してくださった立命館大学、関西大学、京都大学のみなさま、登壇・参加してくださったみなさまにお礼を申し上げたい。

（松下 佳代、佐金 武）

III-5. 広報ワーキンググループ

1. はじめに

広報ワーキンググループ（WG）は、協議会に関する広報業務を担当している。広報部は以下のメンバーで構成されており、2015年1月現在、広報部と広報WGのメンバーは一致している。

広報部・広報WG（敬称略）

大久保敦（大阪市立大学：責任校）

藤永 博（和歌山大学）

酒井博之、田中一孝（京都大学：連絡担当）

2. 活動報告

2014年度の広報WGにおける活動報告を以下におこなう。今年度の具体的な活動として、ニュースレター12号・13号の発行、ホームページおよびメーリングリストの維持・管理、「FD活動報告会」に関する広報関連業務をおこなった。

2-1. ニュースレターの発行

本年度のニュースレターは、第12号（10月、編集責任者：藤永博）と第13号（2月、編集責任者：藤永博）の2号を発行した（図1）（ただし、本稿執筆時点で第13号は未発行）。一昨年度までは、冊子媒体で全会員校宛に送付していたが、昨年度からPDFファイルのみの作成となった。ニュースレターのPDF版へのリンクを会員校に案内するとともに、本協議会ウェブサイトへ掲載し一般公開した。

本ニュースレターでは、協議会が企画・実施したイベント等の活動報告や、各WGからのお知らせのほか、会員校間のFD活動について情報共有を促進するため、個別の会員校におけるFDの取り組み紹介を充実させてきた。第12号（タイトル：「関西FDの新たな展開に向けて」）では、第7回総会の報告に加え、園田学園女子大学、兵庫大学より活動報告がなされた。また、総会と同日に開催された「FD活動報告会2014」に関する特集記事「FD活動報告会の5年を振り返って」の報告もなされた。

2-2. ウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理

本協議会のウェブサイト（<http://www.kansai-fd.org>）の維持・管理を随時おこなった（図2）。また、昨年度作成した、本協議会の会員校に所属する個々の教職員を対象としたメーリングリスト（「会員校教職員メーリングリスト」）の運用も引き続き実施した。

表1に示すように、本サイトは月平均2,648件（2013年11月～2014年10月。ユニークユーザー数では631件／月）のアクセスがあった。このほか、システムのバージョンアップ、幹事校や各ワーキンググループおよび研究サブグループにおける連絡用、全会員校向けの案内用のメーリングリストを適宜作成、更新、管理した。



図1 関西地区FD連絡協議会ニュースレター 第12号
(※本稿執筆時点で第13号は未発行)



図2 関西地区FD連絡協議会 ウェブサイト

表1 ウェブサイトのアクセス数（2013年11月～2014年10月）

| 月 | トータルアクセス数 | ユニークアクセス数 |
|----|-----------|-----------|
| 11 | 2,269 | 546 |
| 12 | 2,283 | 634 |
| 1 | 2,285 | 663 |
| 2 | 2,221 | 613 |
| 3 | 2,120 | 598 |
| 4 | 2,688 | 558 |
| 5 | 3,093 | 671 |
| 6 | 3,823 | 767 |
| 7 | 3,542 | 737 |
| 8 | 2,090 | 522 |
| 9 | 2,052 | 634 |
| 10 | 3,313 | 626 |
| 平均 | 2,648 | 631 |

2-3. 「FD 活動報告会」関連業務

2014年5月の総会で開催した「FD 活動報告会 2014」（III-2 参照）に関する広報業務をおこなった。「FD 活動報告会 2014」報告書として、会員校間ピアレビューを PDF ファイル化し、全会員校に通知した。なお、本報告書は、ピアレビューにおける会員校教職員間のコメントのやり取りを含むため、慎重を期して会員校の教職員のみ閲覧可能としている。また、22校25件の発表原稿一覧を、本協議会ウェブサイト上で一般に公開した。

2-4. MOST 講習会の共催について

2015年度総会において予定されている「FD 活動報告会 2015」におけるポスターセッションの発表原稿の作成と会員校間での蓄積、共有をおこなうため、京都大学で構築したオンラインFD支援システム「MOST」（<https://most-keep.jp>）内で原稿を作成することが推奨されている。MOST利用のための講習会開催を2015年3月に予定しており、これを過年度同様、本WGと共催で実施する（本稿作成時点で未実施）。

3. 次年度の計画について

最後に、広報WG次年度の活動計画について述べる。まず、本協議会のウェブサイトおよびメーリングリストの維持・管理、ニュースレターの発行を引き続きおこなう。ニュースレターについては、引き続き、本協議会による活動報告のほか、会員校で実施されているFDの取り組み紹介による情報共有の充実を図る。さらに、本協議会で「FD 活動報告会 2015」を次年度総会において開催するが、会員校間のピアレビュー活動を電子媒体（PDF）で蓄積・共有す

るための支援をおこなう。電子媒体は会員校に限定して案内予定である。翌年度の報告会のための講習会も共催する予定である。

(酒井 博之、田中 一孝)

III-6. 研究ワーキンググループ

研究ワーキンググループ(WG)は、2013年度、関西地区FD連絡協議会第6回総会(5月18日)において承認された活動方針に基づいて、「FDメディア研究SG」(主査校:大阪成蹊大学)、「FDデザイン研究SG」(主査校:神戸大学)の二つのサブグループを中心に活動を行った。なお、研究WG、各研究SGの活動等については、関西地区FD連絡協議会の各WGの活動に関するホームページ(<http://www.kansai-fd.org/wg/>)に掲載されている。

1. FDメディア研究SG

FDメディア研究SGは、出欠確認研究SGから名称を改めて5年目を迎えた。2012年12月13日大阪成蹊大学にて開催された通算21回目の会合では、倉茂好匡氏(滋賀県立大学)による「滋賀県立大学環境科学部環境フィールドワーク科目でのモバイルアンケート導入について―導入成功の道筋と、その後の展開」、青森共同計算センターによる「モバイル端末による出欠確認、アンケート、新機能」の発表があり、活発な質疑応答が行われた。また、今年度も出席登録画面から連続して授業評価アンケート入力画面を表示する、他に例がない機能であり試みである「携帯電話での授業評価アンケート、出欠確認」の見学会が、大阪成蹊大学で前期2回(2013年6月7日に2回)・後期3回(2013年11月5日、11月6日、12月13日)開催された。

2. FDデザイン研究SG

FDデザイン研究SGは、2013年度、神戸大学大学教育推進機構主催で、FD講演会を3回(2013年9月19日、2014年2月3日、2014年3月17日)した。以下に、各講演会の詳細を挙げる。

講演会1

- ・日時:2013年9月19日(木)10:40～12:10
- ・場所:神戸大学大学教育推進機構 N棟402号室
- ・主催者:神戸大学大学教育推進機構
- ・タイトル:「学生の学習支援について―教育学の知見を基盤とした学際的なアプローチ―」
- ・講師:山内祐平(東京大学大学院情報学環准教授)
- ・内容:

神戸大学では、アクティブ・ラーニングやラーニング・コモンズなど授業外学習の支援を年次計画に掲げて、全学的にそれを推進しようとしている。本講演では、このような取り組みの一環として、東京大学駒場キャンパスの実践などを含めて、「反転授業」などに早くから着目し行われてきた意欲的な実践・研究について話していただいた。

【研修マトリックス】

〔種類〕 講演会

〔テーマ〕 教授学習

講演会 2

- ・ 日時：2014 年 2 月 3 日 15:10 ～ 16:40
- ・ 場所：神戸大学大学教育推進機構 C 棟 401 号室
- ・ タイトル：「高等教育進化論：グローバル化・オープン化・フラット化の時代に大学・教員・学生はどう変わるのか」
- ・ 講師：飯吉透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
- ・ 内容：

テクノロジーの進歩、労働市場のグローバル化などによって、大学の研究面だけでなく教育面でも急速にグローバル化が進行している。MOOC などテクノロジー面での進歩が大学教育にどのようなインパクトをもたらし、教員や学生がどのように変わるのかを、話していただいた。

研修マトリックス

形態：講演会

テーマ：教授学習 (TL)

講演会 3

- ・ 日時：2014 年 3 月 17 日 15:10 ～ 16:40)
- ・ 講師：米川英樹（日本学生支援機構理事）
- ・ 場所：神戸大学大学教育推進機構 C 棟 401 号室
- ・ タイトル：「グローバル人材育成と JASSO」
- ・ 内容：

グローバル化の進む中、日本人学生の海外留学を促進しようという動きが各大学に見られる。この中で重要な役割を果たすのが JASSO である。JASSO は、奨学金貸付事業がとかくクローズアップされがちであったが、国際交流の促進においてもきわめて重要な役割を担っている。JASSO の国際交流担当理事である講師にグローバル人材育成に果たす JASSO の役割と今後の課題について話していただいた。

研修マトリックス

形態：講演会

テーマ：政策・制度 (P)

(飯吉 透)

III-7. 主催・共催・協賛イベント一覧

| 年月日 | イベント概要 |
|-------------------|---|
| 2014.4.19 【共催】 | 滋賀県立大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「授業の基本」研修会 ―授業の基本と授業づくり― 授業の基本①―基本の基本― 授業の基本②―授業展開上の罫― 授業づくりワークショップ 講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：滋賀県立大学交流センター研修室 1～3 |
| 5.30 【共催】 | 滋賀県立大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「授業の基本」研修会 ―数式を扱う授業のために― 講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：滋賀県立大学A2棟201講義室 |
| 6.19 【共催】 | 大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「研究倫理教育をどう授業・指導のなかに取り入れるか」 講師：大阪大学全学教育推進機構 中村征樹 於：大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンター会議室3 |
| 6.19 【共催】 | 大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「自主性を育むプロジェクト学習（PBL）を授業に取り組む方法」 講師：大阪大学全学教育推進機構 松行輝昌 於：大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンター会議室3 |
| 6.27 【共催】 | 滋賀県立大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「授業の基本」研修会 ―視聴覚教材を用いる授業のために― 講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：滋賀県立大学A2棟201講義室 |
| 7.2 【共催】 | 大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「アクティブラーニングを促す教育技法」 講師：大阪大学全学教育推進機構 佐藤浩章 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構A棟212教室 |
| 7.2 【共催】 | 大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「ルーブリック評価入門 ～時短・ブレない・公平な評価方法～」 講師：大阪大学全学教育推進機構 佐藤浩章 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構A棟212教室 |
| 7.3 【共催】 | 大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「自主性を育むプロジェクト学習（PBL）を授業に取り組む方法」 講師：大阪大学全学教育推進機構 松行輝昌 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構A棟312教室 |

| | |
|-------------------------|---|
| <p>7.12-13 【共催】</p> | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 FD 共催 第 3 回授業デザインワークショップ 「よりよい授業のデザインと実践を身につける」 オリエンテーション（研修の目的・目標の確認／スタッフ紹介とお願い） アイスブレイキング（参加者自己紹介／緊張緩和のためのグループワーク） ミニ講義Ⅰ（自学自習を促すシラバス作成法：目的と目標の違い／ 目標と評価を対応させる／記憶・理解を促し、動機を高める学習順序） ワークⅠ（シラバス作成とコースデザイン） ミニ講義Ⅱ（様々な授業方法：講義法のメリット・デメリット／PBL／ グループワーク／反転授業／ICT 活用） ワークⅡ（授業方法・学習評価方法の選択） 中間発表 ワークⅢ（クラスデザインと教材作成） ミニ講義Ⅲ（厳密・公平・時短の学習評価方法） ワークⅣ（授業練習） 模擬授業（10 分間の模擬授業と授業研究） 振り返り 講師：大阪大学教育学習支援センター 佐藤浩章、家島明彦、森秀樹、 大山牧子、根岸千悠、竹村治雄 於：スペースアルファ神戸</p> |
| <p>7.17 【共催】</p> | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「ワークショップをいかに授業に取り入れるか」 講師：大阪大学教育学習支援センター 森秀樹 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構A棟212教室</p> |
| <p>7.25 【共催】</p> | <p>滋賀県立大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「授業の基本」研修会 ―授業に学生を「参加」させるには― 講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：滋賀県立大学A2棟201講義室</p> |
| <p>8.7-8 【共催】</p> | <p>神戸薬科大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「授業の基本」＋「成績評価」ワークショップ 1 日目「授業の基本」 授業の基本①ー基本の基本ー 授業の基本②ー授業展開上の罫ー 授業づくりワークショップ 2 日目「成績評価をどうすべきか？ーループリックの基本ー」 学科 DP と担当科目到達目標の関係 ループリックを作ってみよう ループリック完成ワークショップ 講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：神戸薬科大学4号館3階K431</p> |
| <p>8.11 【共催】</p> | <p>滋賀県立大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「授業の基本」研修会 ―成績評価の方法：ループリックの作り方ー ディプロマポリシーやカリキュラムマップと到達目標の関係</p> |

| | |
|-------------------------|--|
| | <p>到達目標に応じたルーブリックとは ルーブリック完成ワークショップ 講師：滋賀県立大学教育実践支援室長 倉茂好匡 於：滋賀県立大学交流センター研修室 1～3</p> |
| <p>9.1 【協賛】</p> | <p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催 河合塾教育研究開発本部、関西地区 FD 連絡協議会協賛 「学位プログラムをどうデザインするか？ ー歴史学分野におけるチューニングの事例からー」 セッション 1 講演 開会挨拶 京都大学高等教育研究開発推進センターセンター長 飯吉透 講演 1「チューニングとは何か？ー目的、プロセス、教育政策への示唆ー」 国立教育政策研究所高等教育研究部・総括研究官 深堀聰子 講演 2「歴史学のコアと歴史学学位プログラムの開発 ーUSU での経験からー」 ユタ州立大学歴史学部教授 ダニエル・マッキナーニー セッション 2 パネルディスカッション 司会 京都大学高等教育研究開発推進センター教授 溝上慎一 指定討論「京都大学の教育改革ーチューニングから何を学ぶか？」 京都大学高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代 パネルディスカッション パネリスト：ダニエル・マッキナーニー、深堀聰子、松下佳代 開会挨拶 京都大学高等教育研究開発推進センターセンター長 飯吉透 於：京都大学芝蘭会館別館</p> |
| <p>9.1-2-3 【共催】</p> | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 FD 共催 第 4 回授業デザインワークショップ 「よりよい授業のデザインと実践を身につける」 オリエンテーション（研修の目的・目標の確認／スタッフ紹介とお願い） アイスブレイキング（参加者自己紹介／緊張緩和のためのグループワーク） ミニ講義Ⅰ（自学自習を促すシラバス作成法：目的と目標の違い／ 目標と評価を対応させる／記憶・理解を促し、動機を高める学習順序） ワークⅠ（シラバス作成とコースデザイン） ミニ講義Ⅱ（様々な授業方法：講義法のメリット・デメリット／PBL／ グループワーク／反転授業／ICT 活用） ワークⅡ（授業方法・学習評価方法の選択） 中間発表 ワークⅢ（クラスデザインと教材作成） ミニ講義Ⅲ（厳密・公平・時短の学習評価方法） ワークⅣ（授業練習） 模擬授業（10 分間の模擬授業と授業研究） 振り返り 講師：大阪大学教育学習支援センター 佐藤浩章、家島明彦、森秀樹、 大山牧子、根岸千悠、竹村治雄 於：大阪大学豊中キャンパス</p> |

| | |
|---------------|--|
| 9.5 【共催】 | <p>大阪工業大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催</p> <p>授業の基本の基本ワークショップ「理系のためのアクティブラーニング」</p> <p>アクティブラーニングの基本</p> <p>昼食会</p> <p>理系向きのアクティブラーニング</p> <p>授業内容改善ワークショップ</p> <p>講師：滋賀県立大学環境科学部教授・教育実践支援室長 倉茂好匡</p> <p>於：大阪工業大学大宮キャンパス</p> |
| 9.6 【協賛】 | <p>関西大学教育開発支援センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛</p> <p>第 11 回関西大学 FD フォーラム</p> <p>「アクティブ・ラーニングの Future Design」</p> <p>開会挨拶</p> <p>基調講演①「大学教職員にとってのアクティブ・ラーニング」</p> <p>神戸大学大学教育推進機構教授 近田政博</p> <p>基調講演②「アクティブ・ラーニングの成果指標」</p> <p>立命館大学教育開発推進機構教授 沖裕貴</p> <p>基調講演③「ジェネリックスキルを培う新しいアクティブ・ラーニング」</p> <p>関西大学教育開発支援センター研究員 田上正範</p> <p>パネルディスカッション</p> <p>閉会挨拶</p> <p>於：関西大学千里山キャンパス第 2 学舎 2 号館 C304 教室</p> |
| 9.8-9 【共催】 | <p>関西学院大学教務機構高等教育推進センター主催</p> <p>関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催</p> <p>「大学教員のための『講義方法のブラッシュアップ』B」</p> <p>9月8日（月）</p> <p>講義「視聴覚教材を用いる授業のために」</p> <p>「学生に授業を『参加』させるには」</p> <p>ワークショップ「宿題と氷塊」</p> <p>9月9日（火）</p> <p>講義「ループリックによる評価」</p> <p>個人ワーク「ループリックを作ってみよう」</p> <p>グループワーク</p> <p>講師：滋賀県立大学環境科学部教授・教育実践支援室長 倉茂好匡</p> <p>於：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス第 4 別館 205 号教室</p> |
| 9.25 【共催】 | <p>京都大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催</p> <p>「学生に届く声</p> <p>ー授業におけるコミュニケーションスキルのためのワークショップー」</p> <p>講師：舞台演出家、俳優、「劇団衛星」主宰、</p> <p>大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師 蓮行</p> <p>於：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールⅢ</p> |
| 10.8 【協賛】 | <p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催</p> <p>学校法人河合塾教育研究開発本部、関西地区 FD 連絡協議会協賛</p> <p>「学習のための、学習としての評価</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>ーPBL と MOOC における学習評価の可能性ー」 開会挨拶：京都大学国際高等教育院副教育院長 喜多一 司会：京都大学高等教育研究開発推進センター教授 溝上慎一 講演「学習の評価から、学習のための評価へ」 “Assessment for (not of) Learning” ハーバード大学教授 エリック・マズール 報告 「MOOC の進化と学習評価」”Evolution of MOOC and Learning Assessment” 京都大学高等教育研究開発推進センター長 飯吉透 「学習としての評価」 ーPBL（問題基盤型学習）におけるパフォーマンス評価ー」 “Assessment as Learning: Performance Assessment in Problem-Based Learning” 京都大学高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代 パネルディスカッション パネリスト：エリック・マズール、飯吉透、松下佳代 閉会挨拶：飯吉透 於：京都大学芝蘭会館山内ホール</p> |
| 10.28 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「科目の中でのアカデミックライティング指導法」 講師：大阪大学全学教育推進機構 堀一成 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構A棟212教室</p> |
| 11.6 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「大人数講義法をもっと魅力的にする 30 の技法」 講師：大阪大学全学教育推進機構 佐藤浩章 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構A棟212教室</p> |
| 11.6 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「アクティブ・ラーニングを促す教育技法」 講師：大阪大学全学教育推進機構 佐藤浩章 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構A棟212教室</p> |
| 11.8 【協賛】 | <p>関西大学・津田塾大学主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 関西大学シンポジウム「ライティング支援の未来像 ー社会との効果的な連携と支援ツールの活用ー」 第1部 取組紹介・講演 開会の挨拶 趣旨、取組の概要、関西大学と津田塾大学での取組紹介 講演① 講師：大阪音楽大学 高橋典子 講演② 講師：学び舎「森ゼミ」代表 森吉弘 講演③ 講師：日本女子大学 小川賀代 第2部 パネルディスカッション パネルディスカッション 閉会の挨拶 於：関西大学千里山キャンパス尚文館1階マルチメディアAV大ホール</p> |

| | |
|---------------|--|
| 11.13 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催</p> <p>「ワークショップをいかに授業に取り入れるか」</p> <p>講師：大阪大学教育学習支援センター 森秀樹、大山牧子、根岸千悠</p> <p>於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構A棟212教室</p> |
| 11.15 【協賛】 | <p>大阪大学教育学習支援センター主催 大阪大学全学教育推進機構共催</p> <p>関西地区 FD 連絡協議会協賛</p> <p>大阪大学教育学習支援センター国際シンポジウム</p> <p>「大学カリキュラム改革の最前線</p> <p>ー新しい時代に求められる能力と教養教育ー」</p> <p>基調講演「未踏の地への挑戦</p> <p>ー不確実性の高い世界に学生をどういざなうのかー」</p> <p>“Venturing into Strange Places’:Actively Engaging Our Students for an Uncertain World”</p> <p>Ray Land (Director, Centre for Academic Practice in the School of Education, Durham University)</p> <p>事例講演 1「教授・学習・教育の再考ーフィンランドアールト大学の事例ー」</p> <p>“Case Aalto University:Rethinking Teaching, Learning and Education”</p> <p>Martti Raevaara (Vice President, Aalto University)</p> <p>事例講演 2「都市型大学における学生の学習を支援する共通教育カリキュラムの改革ー米国ポートランド州立大学の事例ー」</p> <p>“University Studies:Transformative General Education Supporting Student Learning at an Urban University”</p> <p>Yves Labissiere (Interim Director, University Studies, Community Health, Portland State University)</p> <p>事例講演 3「京都大学における教養・共通教育改革」</p> <p>“Reform of General Education in Kyoto University”</p> <p>京都大学国際高等教育院副院長 喜多一</p> <p>基調講演と事例講演の解説</p> <p>大阪大学未来戦略機構教授 川嶋太津夫</p> <p>大阪大学における共通教育</p> <p>大阪大学全学教育推進機構企画開発部長 竹村治雄</p> <p>パネルディスカッション</p> <p>於：大阪大学豊中キャンパス基礎工学研究科シグマホール</p> |
| 11.27 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催</p> <p>「自学自習を促すシラバス作成法」</p> <p>講師：大阪大学全学教育推進機構 佐藤浩章</p> <p>於：大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンター研修室</p> |
| 11.27 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催</p> <p>「ルーブリック評価入門～時短・ブレない・公平な評価方法～」</p> <p>講師：大阪大学全学教育推進機構 佐藤浩章</p> <p>於：大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンター研修室</p> |
| 11.28 【共催】 | <p>神戸薬科大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催</p> <p>「学生主体の学びと深い理解を引き起こすジグソー学習法の原理と実際」</p> |

| | |
|------------------|---|
| | <p>ジグソー学習法とその理論的背景の紹介 ジグソー学習法の体験 ジグソー体験法を用いた授業づくり 講師：静岡大学大学院教育学研究科准教授 益川弘如 於：神戸薬科大学4号館3階K431</p> |
| 12.15 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「オープンエデュケーションによる教育改善への取り組み」 講師：大阪大学サイバーメディアセンター・全学教育推進機構 竹村治雄 於：大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンター会議室 1</p> |
| 12.20 【主催】 | <p>関西地区 FD 連絡協議会 FD 連携企画 WG 主催 京都大学高等教育研究開発推進センター共催 「思考し表現する学生を育てる VI ーコピーではなく自分の頭で考えさせるためのライティング指導ー」 オープニング（開会挨拶・趣旨説明） 講演とワーク（その1） 「大学におけるパーソナル・ライティング導入の意義 ー『文章表現者としての主体形成』をいかに促すかー」 帝塚山大学全学教育開発センター准教授 谷美奈 講演とワーク（その2） 『『思考の型』をいかに学ばせるか ー哲学系科目におけるライティング指導ー」 京都薬科大学一般教育分野講師 坂本尚志 ディスカッション クロージング（閉会挨拶） 於：京都大学吉田南1号館3階1共31講義室</p> |
| 12.22 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「授業を分析的に振り返るための教育・学習理論」 講師：大阪大学全学教育推進機構 松河秀哉 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構総合棟 I 開放型セミナー室</p> |
| 2015.1.8 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「自学自習を促すシラバス作成法」 講師：大阪大学全学教育推進機構 佐藤浩章 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構 A 棟 212 教室</p> |
| 1.8 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「ループリック評価入門～時短・ブレない・公平な評価方法～」 講師：大阪大学全学教育推進機構 佐藤浩章 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構 A 棟 212 教室</p> |
| 1.19 【協賛】 | <p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 京都大学 FD 研究検討委員会後援 「MOOC 時代の大学教育改善 ーAdvancing Higher Education in the Age of MOOCー」 セッション 1</p> |

| | |
|-----------------|--|
| | <p>開会挨拶：京都大学理事・副学長 北野正雄 基調講演：ハーバード大学教授 Robert A. Lue（ロバート・ルー） 「大学のデジタル革命」 講演：京都大学理事補・高等教育研究開発推進センター長・教授 飯吉透 「京都大学における教育イノベーションと教授・学習支援の新たな可能性」</p> <p>セッション 2 話題提供： 京都大学情報環境機構長・学術情報メディアセンター教授 美濃導彦 大阪大学全学教育推進機構企画開発部長・教育学習支援センター長・ サイバーメディアセンター教授 竹村治雄</p> <p>セッション 3 パネルディスカッション： 司会：京都大学高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代 パネリスト：Robert A. Lue、飯吉透、美濃導彦、竹村治雄 於：京都大学芝蘭会館稲盛ホール</p> |
| 2.4 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「目的に応じたグループ学習を授業に導入する方法」 講師：大阪大学教育学習支援センター 大山牧子、根岸千悠、森秀樹 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構 A 棟 212 教室</p> |
| 2.12-13 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「コースデザインワークショップ（宿泊型）」 オリエンテーション（研修の目的・目標の確認／スタッフ紹介とお願い） アイスブレイキング（参加者自己紹介／緊張緩和のためのグループワーク） ミニ講義Ⅰ（自学自習を促すシラバス作成法：目的と目標の違い／ 目標と評価を対応させる／記憶・理解を促し、動機を高める学習順序） ワークⅠ（シラバス作成とコースデザイン） ミニ講義Ⅱ（様々な授業方法：講義法のメリット・デメリット／PBL／ グループワーク／反転授業／ICT 活用） ワークⅡ（授業方法・学習評価方法の選択） 中間発表 ワークⅢ（クラスデザインと教材作成） ミニ講義Ⅲ（厳密・公平・時短の学習評価方法） ワークⅣ（授業練習） 模擬授業（10 分間の模擬授業と授業研究） 振り返り 講師：大阪大学教育学習支援センター 佐藤浩章、竹村治雄、森秀樹、 大山牧子、根岸千悠 於：スペースアルファ神戸</p> |
| 2.18 【共催】 | <p>大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「主体的な学びに向けた、学生のリフレクションを促す方法」 講師：大阪大学教育学習支援センター 大山牧子、根岸千悠、森秀樹 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構 A 棟 212 教室</p> |

| | |
|-----------------|---|
| 2.20 【共催】 | 大阪大学主催 関西地区 FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 共催 「若手教員のためのキャリアプランニングカフェ」 講師：大阪大学教育学習支援センター 根岸千悠、大山牧子 於：大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構 A 棟 212 教室 |
| 2.21 【協賛】 | 関西大学教育開発支援センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛 関西大学第 12 回 FD フォーラム 「21 世紀を生き抜く考動人＜Lifelong Active Learner＞を育成するために ～未来を切り開く交渉学～」 開会宣言 総司会：山本敏幸 教授（関西大学教育推進副部長） 開会挨拶：楠見晴重 学長（関西大学） 本取組の紹介：三浦真琴 教授（関西大学教育開発支援副センター長） 講師紹介：山本敏幸 教授 講演①：隅田浩司 氏（東京富士大学経営学部経営学科教授、 金沢工業大学大学院知的創造システム専攻客員教授、 慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所客員研究員） 講演②：一色正彦 氏（金沢工業大学大学院知的創造システム専攻客員教授、 慶應義塾大学大学院経営管理研究科非常勤講師・ グローバルセキュリティ研究所客員研究員、 東京大学大学院工学系研究科非常勤講師） 質疑応答 閉会挨拶：田中俊也 教授（関西大学教育開発支援センター長） 閉会 於：関西大学千里山キャンパス第 2 学舎 2 号館 C303 教室 |
| 3.5 【共催】 | 神戸大学大学教育推進機構主催 関西地区 FD 連絡協議会研究 WG 共催 FD 講演会「今なぜアクティブ・ラーニングか」 講師：京都大学高等教育研究開発推進センター教授 溝上慎一 於：神戸大学瀧川記念学術交流会館 2F |
| 3.13-14 【協賛】 | 京都大学高等教育研究開発推進センター主催 学校法人河合塾教育研究開発本部、関西地区 FD 連絡協議会協賛 「第 21 回大学教育研究フォーラム」 開会挨拶 山極壽一（京都大学総長） 基調講演 シンポジウム その他、個人研究口頭発表、個人研究ポスター発表、参加者企画セッション、 小講演、MOST フェロー発表会、情報交換会 於：京都大学百周年時計台記念館・吉田南 1 号館・吉田南総合館 |
| 3.20 【共催】 | 京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会広報 WG 共催 「MOST 講習会」 趣旨説明、MOST・KEEP Toolkit の概要説明 酒井博之（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授） MOST 操作説明 |

| | |
|--|---|
| | 参加者によるスナップショットの作成 於：京都大学吉田南 1 号館 206 会議室 |
|--|---|

(中村 麻紀)